

2023年度版

事業概要

南部地域療育センターそよ風

南部地域療育センターそよ風

通園部「子ども像」

いのちを守り、いのちをつよくなる子ども
ゆたかな要求をもち、意欲的に生活する子ども
どきどきわくわくしながら、あそぶことが大好きな子ども
人の気持ちがわかり、自分の気持ちを伝えられる子ども
人とともに育ちあえる子ども

相談診療部「理念」

「児童憲章前文」

児童は、人として尊ばれる
児童は、社会の一員として重んぜられる
児童は、よい環境の中で育てられる

私たちは、この「児童憲章前文」の精神を大切に、次のことを目指します。

生命と人権の尊重

- ・子どもたちの一人一人の生命をかけがえのないものとして大切にします
- ・子どもの人権を守り、最善の利益を追求します

家族や地域とともに

- ・子どもや保護者から学び、ともに育ちあう関係を大切にします
- ・地域の機関、組織と連携し、子どもや家族が地域で豊かに生活できることを目指します
- ・社会に目を向け、協働して現状の変革に努めます

療育の追求

- ・子どもが主体的に生きることを大切にします
- ・あそびや生活を豊かにし、人と関わる力を育てます
- ・豊かな人間性と、科学的な視点を持ち、療育の専門性を追求します

はじめに

新型コロナウイルス感染症は2023年5月8日から5類感染症となりました。その後も発生数は増減を繰り返し、2023年6月から11月まで流行がみられ、2024年も2月をピークに4月末までは減少していましたが、5月から徐々に増加傾向になっています。

世界ではロシアのウクライナ侵攻は継続され、それに加えてパレスチナ自治区ガザに対するイスラエルの地上侵攻、空爆が起き、パレスチナ援助を妨害し、パレスチナ人の飢餓も深刻化しています。

ロシア、イスラエルは確信をもって戦争を継続し、ウクライナ侵攻でロシアを批判するアメリカはイスラエルを支持して、イスラエル非難の決議には拒否権を使うという事態になっていて、終わりが見通せません。

また国内では1月1日には令和6年能登半島地震が起きました。社会館からもボランティア活動に行かれた職員もいます。6月4日にも珠洲、輪島で震度4の余震がありました。

私は残念ながらボランティアには行けていませんが、2017年9月3日から10月22日に珠洲市で第1回、奥能登国際芸術祭が開かれ、見に行ってきました。1泊2日で出かけたのですが、展示を回り切れず、風景も良かったので、2週間後にもう一度行ったくらいです。

公式ガイドブックに「さいはての芸術祭、美術の最先端」とあるくらいで、能登半島は大きく、珠洲市まで、車では名古屋から東海北陸・北陸自動車道経由で5時間20分、金沢駅からでも特急バスで3時間かかります。

半島北側の揚げ浜式塩田近くの使われなくなった保育園に制作された塩田千春（ベルリン在住）の「時を運ぶ船」から回り始め、木ノ浦湾の会場に作られた「海上のさいはて茶屋」、今は穴水駅までとなった「のと鉄道（元は国鉄）・能登線」のかつての終着駅であった蛸島駅にあるトビアス・レーベルガー（ドイツ）の「Something Else is Possible/ なにか他にできる」という題名のカラフルな屋外作品など見どころ満載の芸術祭でした。

能登島北側の七尾北湾には野生のイルカの群れがいて、和倉港からイルカウォッチングの船が出ていて、イルカの群れにも会って帰りました。

2020年に第2回、2023年に第3回が開催されたのですが、残念ながら行けませんでした。

令和5年12月、「1か月児及び5歳児健康診査事業について」が示され、「5歳児健診マニュアル」が作成されました。「5歳児健康診査の実施に当たって求められる地域のフォローアップ体制等の整備について」検討が始まるものと思われます。

今年度もよろしく申し上げます。

2024年5月

愛育診療所

所長 外園芳美

目 次

第 1 施設の概要	1
1. 施設の目的	1
2. 設置運営	1
3. 施設構成	1
4. 法人の経緯	1
5. 建物の概要	3
6. 事業の概要	3
(1) 事業の種類	3
(2) 担当地域	3
(3) 組織・職員体制	4
(4) 相談の流れ	5
第 2 発達相談事業	6
1. 新規相談	6
2. 発達検査および発達相談	11
(1) 新規相談児童の発達検査	11
(2) 継続相談児童の発達検査、および発達相談	11
(3) 検査結果	12
3. 初診前サポート事業	13
4. 療育グループ	15
(1) 就園前グループ	15
(2) 就園前グループアフターのつどい	21
(3) 並行グループ	22
5. 保護者向け学習会	26
(1) 年長児保護者向け学習会	26
第 3 医療事業	27
1. 診 療	27
(1) 小 児 科	27
(2) 整 形 外 科	32
(3) 耳 鼻 咽 喉 科	34
(4) 精 神 科	36
(5) 検 査	37
(6) 診断書等発行	37
2. 訓 練	38
(1) 理学療法 (PT)	38
(2) 作業療法 (OT)	41
(3) 言語聴覚療法 (ST)	44
(4) 生活支援	47
(5) 学 習 会	49
(6) 音楽療法 (MT)	50

第4 通園事業	51
1. 施設概要	51
(1) 定員	51
(2) 対象児童	51
(3) クラス編成	51
(4) 通園形態	51
(5) 親子通園の種類	51
(6) 通園バス	51
2. 療育内容	51
(1) 子ども像	51
(2) 療育の視点	51
(3) 療育計画	53
3. 家族支援	58
4. 見守り一時支援	59
5. 2023年度のまとめ	60
6. 児童の状況	62
第5 地域支援・調整事業	64
1. 地域連携	64
2. 巡回療育指導	66
3. 訪問療育指導	67
4. 通園部アフターケア	68
5. アフターケア	69
6. そよ風広場	70
7. 兄弟プログラム	70
8. 施設・プール開放	70
9. 地域啓発・ボランティア育成	70
第6 児童デイサービス	71
1. デイサービス ACT	71
2. デイサービスみどりそよ風	73
第7 障害児相談支援事業所	75
第8 医療的ケア児等支援スーパーバイザー事業	77
資料 センター利用者数の10年間の推移(2014年度～2023年度)	79
平面図	82

第1 施設の概要

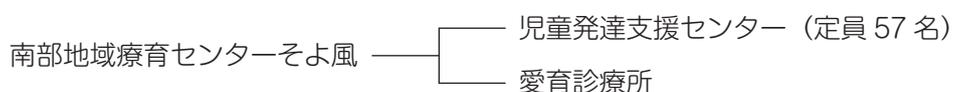
1 施設の目的

南部地域療育センターそよ風は、障害のある子ども、発達遅れや育ちに不安のある子ども等地域のすべての子どもの成長、発達を支援する。同時に、地域のなかで障害児とその家族があたりまえに暮らすための地域生活支援を行うことを目的に、通園事業、医療（訓練）事業、発達相談事業、地域ケア事業、生活支援事業、専門事業をすすめる。

2 設置運営

社会福祉法人 名古屋キリスト教社会館

3 施設構成



- ・ 保険医療機関指定
- ・ 生活保護法医療機関指定
- ・ 公害医療機関指定
- ・ 指定自立支援医療医療機関指定
- ・ 運動器リハビリテーション（Ⅰ）基準承認
- ・ 脳血管疾患等リハビリテーション（Ⅱ）基準承認
- ・ 障害児（者）リハビリテーション基準承認 等

4 法人の経緯

1961年 3月	社会福祉法人名古屋キリスト教社会館設立
1961年 4月	社会館保育部認可
1966年 4月	心身障害幼児の通園施設「愛育園」開設
1973年 4月	「愛育園」（精神薄弱児通園施設、定員 30 人）認可
1987年 3月	社会福祉法人名古屋キリスト教社会館「将来構想」策定
1989年 7月	名古屋市「地域療育センター構想検討会報告書」策定
1992年 2月	「南部地域療育センター建設計画」策定
1996年 4月	「南部地域療育センターそよ風」竣工
1998年 10月	障害児（者）地域療育等支援事業
1999年 4月	自立訓練ホーム・レスパイトケア開始
2000年 3月	名古屋キリスト教社会館第二次将来計画 21 世紀福祉プラン策定
2000年 9月	自立ホーム のどか、うらら開始（無認可）
2001年 4月	「南・緑生活支援センター のどか」開設
2002年 4月	グループホーム「のどか」「うらら」認可
2002年 7月	障害児者地域生活支援センターみなみ開設

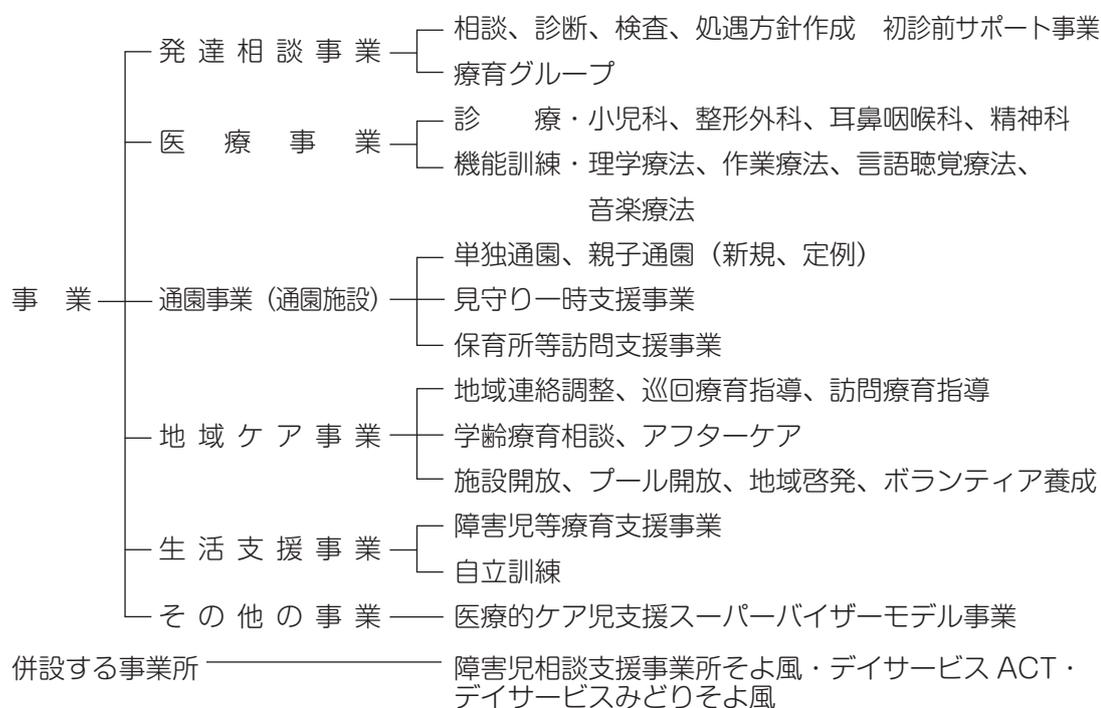
2003年 1月	「生活支援センターびぼっと」開設
2003年 4月	支援費制度開始
	知的障害児通園施設 名古屋市立あつた学園 名古屋市より運営移管
	「発達センターあつた」開設
	知的障害児通園施設 名古屋市立ちよだ学園 名古屋市より運営移管
	「発達センターちよだ」開設
	デイサービスちよだ開設
	デイサービス ACT 開設 グループホーム「天歩」開設
2003年 6月	子どもセンターみどり竣工 デイサービスみどり開設
2004年 6月	デイサービスあつた開設
2006年 4月	障害者自立支援法施行
2006年 6月	ケアホーム「ホームしゃかいかん」開設
2006年 10月	障害者自立支援法本格施行に伴う児童福祉法の改定により通園施設が契約制度に移行
2006年 11月	名古屋キリスト教社会館第三次将来計画構想策定 - 21世紀福祉プラン改訂版-
2007年 4月	事業体系移行にともない生活介護事業開設 定員 20 名
2009年 8月	社会館「生活支援センターびぼっと」竣工
2010年 7月	「名古屋キリスト教社会館 東館」開設
2010年 8月	東館 2 階 療育グループ専用室確保
2010年 9月	社会福祉法人名古屋キリスト教社会館 創立 50 周年
2011年 3月	ケアホーム「いっぽ」開設
2012年 10月	相談支援事業所びぼっと開設
2012年 12月	みどり菜の花保育園竣工
2013年 3月	子どもセンターとくしげ竣工
2013年 5月	児童発達支援事業所 みどりそよ風 開設
2013年 7月	障害児相談支援事業所 そよ風 開設
	障害児相談支援事業所 あつた 開設
	障害児相談支援事業所 ちよだ 開設
2013年 11月	名古屋キリスト教社会館第四次将来計画構想策定
2014年 4月	「社会館障害者基幹相談支援センター」(コンソーシアム) 開設
2014年 6月	「東部地域療育センターぽけっと」竣工
2016年 4月	多世代交流西館竣工。南部地域療育センターそよ風 通園部 定員 50 名に変更
2019年 4月	生活支援センターびぼっと西館竣工
2019年 7月	東部地域療育センターぽけっと 初診前サポートモデル事業開始
2020年 3月	名古屋キリスト教社会館第五次将来計画構想策定
2020年 7月	東部地域療育センターぽけっと 地域支援調整事業開始
2021年 7月	南部地域療育センターそよ風 初診前サポート事業開始
2021年 8月	医療的ケア児支援スーパーバイザーモデル事業開始

5 建物の概要

敷地面積	敷地 3,066.35㎡（南区三吉町 6-17）		
構 造	本館：鉄筋コンクリート造 3 階建 東館：鉄骨造 3 階建のうち 2 階・3 階一部 西館：鉄骨造 3 階建のうち 2 階一部		
規 模	建築面積 延べ床面積 本館：1,751㎡ 東館：236.47㎡ 西館：163.89㎡		
併設施設	<ul style="list-style-type: none"> ・菜の花保育園（定員 135 人） ・名南ユースセンター ACT ・小規模多機能つどい（定員 25 名） ・デイサービス友（定員 20 名） ・デイサービス ACT（定員 10 名） ・子育て支援センターなのはな 		

6 事業の概要

(1) 事業の種類



(2) 担当地域

事業区分	担当地域
発達相談事業 医療事業 通園事業 地域ケア事業	南区、緑区

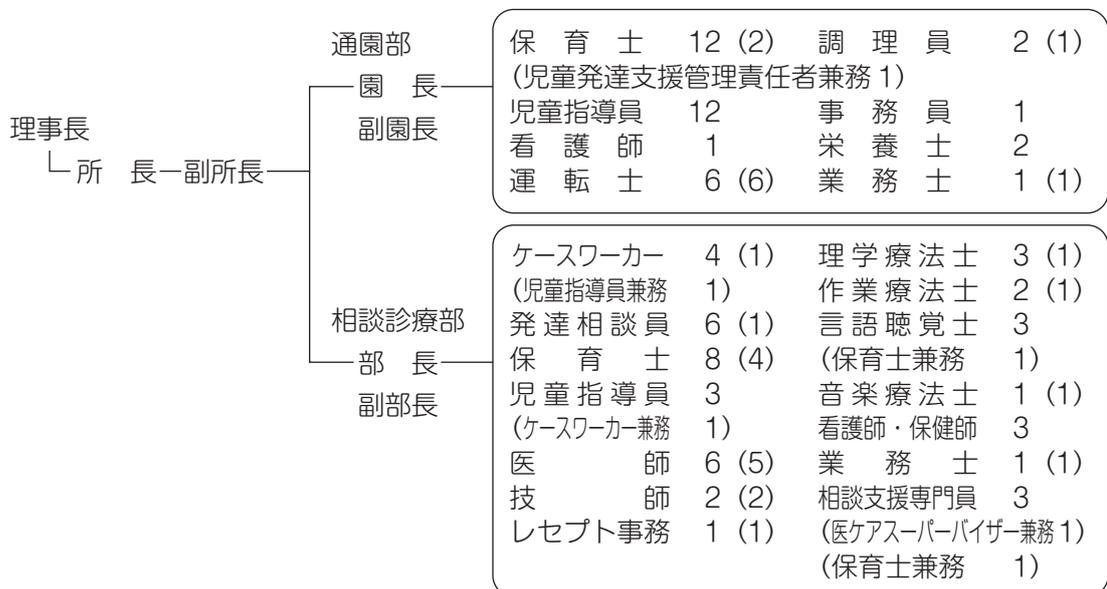
〈参考〉

人口、面積（2023年10月1日）

	名古屋市	南区	緑区	2区合計
人口(人)	2,326,683	131,459 (5.7%)	247,701 (10.6%)	379,160 (16.3%)
0～5歳	148,370	6,051 (4.1%)	15,116 (10.2%)	21,167 (14.3%)
0～17歳	439,039	18,584 (4.2%)	45,471 (10.4%)	64,055 (14.6%)

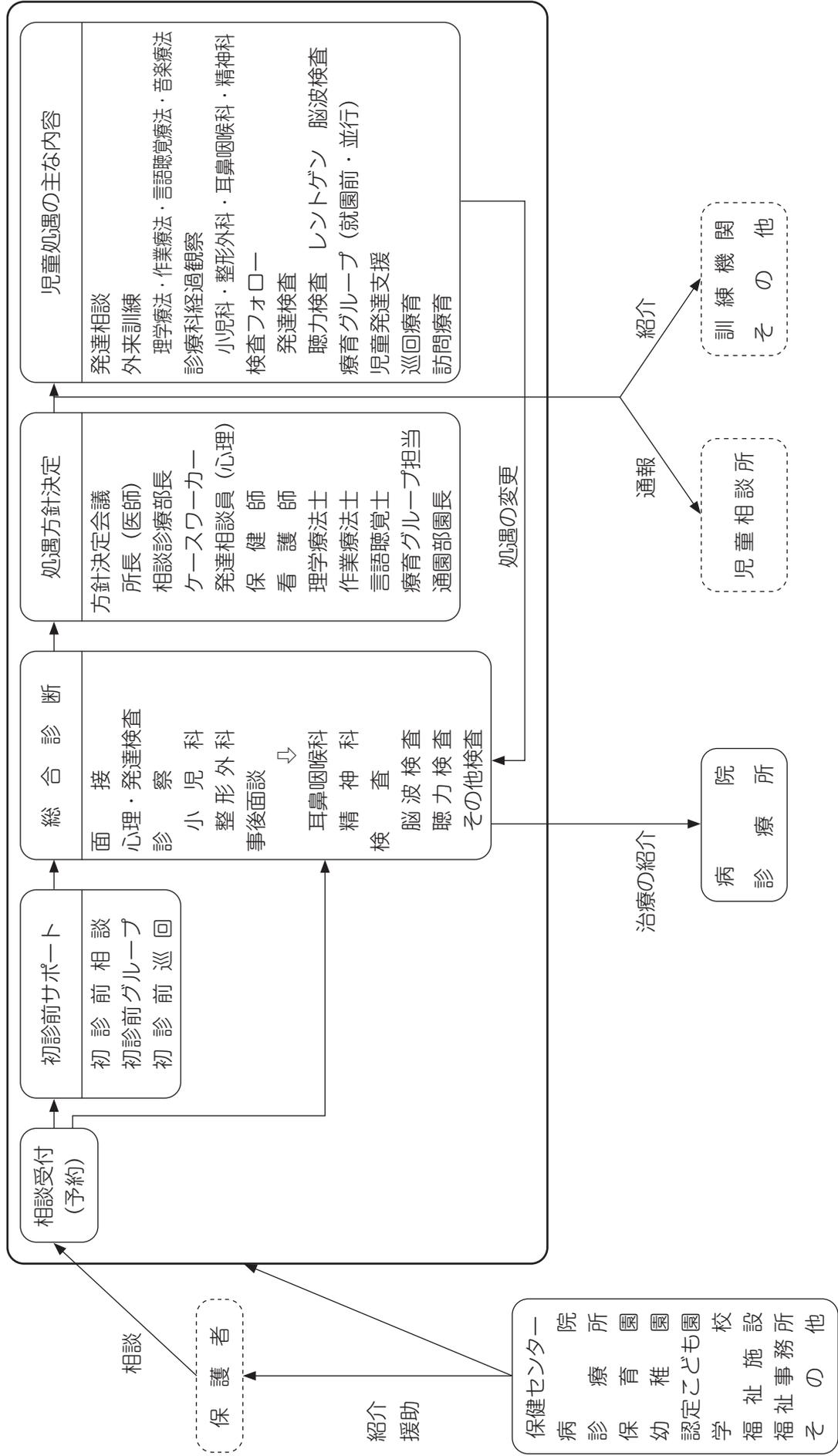


(3) 組織・職員体制 [() 内、嘱託職員・パート職員再掲] (2023年4月1日現在)



(4) 相談の流れ

南部地域療育センターそよ風



第2 発達相談事業

1 新規相談

2023年5月8日に新型コロナウイルス感染症の位置づけが「5類感染症」となり、感染症が社会に及ぼす影響が減少し社会活動が進んだ1年となった。

緑区南区の出生数の合計は2016年をピークに減少している。一方で保育所利用児童数は0-2歳児、3-5歳児ともに増加しており、子育て世代の生活に合わせた対応が求められている。

今年度の新規相談希望者は439人で昨年度から大きな変動はない。10年間の新規相談希望者の推移からも新規相談希望者は大きく変動しておらず、出生数の約15%が初診に繋がっており、人口は減っているが受診者数は増えている。

当センターでは「気になる段階からの支援」を主眼とし、「必要な子どもが」「必要な時期に」「必要な支援を」受けられるように初診やその後のフォローの在り方を構築してきた。社会背景として、両親ともに就労している家庭が増加し、初診やフォローの在り方についても社会の状況に応じた実施が求められている。

名古屋市が定めた「今後の名古屋市早期子ども発達支援体制に関する方針」により導入された「地域支援・調整部門」が当センターにも2023年7月に設置された。2021年7月より開始していた初診前サポートに加え、地域支援・調整部門としてさらなる事業を具体的に開始した。

- ・新規相談は1週間に通常初診を4ケース、1.2歳児初診は7～8ケース、合診は1ケースを実施した。

年間の初診受診者総数は439人で、内訳は通常初診179人(40%)、1.2歳児初診231人(53%)、合診29人(7%)である。昨年度全初診数425人に対する通常初診174人(41%)、1.2歳児初診223人(52%)、合診28人(7%)とほぼ変化が無い。

- ・障害種別状況では、自閉症は前年度152人(35.8%)から今年度は65人(14.8%)に減少。一方で言語発達障害等が前年度210人(49.4%)から285人(64.9%)に増加している。また、診断区分についても前年度の自閉症167人(39.3%)から今年度77人(17.5%)に減少。言語発達遅滞は前年度136人(32%)から今年度211人(48%)に増加している。障害種別・障害区別が言語発達障害等や言語発達遅滞であっても、自閉症等の特性があり今後注意して見ていく必要のあるお子さんも多く、初診後の経過を追う必要がある。

- ・合診は、昨年度の初診数とほぼ変わらない。受診児の内訳は未歩行が主訴のお子さんが64%を占めており、医療的ケアのあるお子さんは29人中2人であった。

表2-1 区別状況

(2023年度、単位：人)

区	就学前児童							計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳		
南区	1	13	45	29	22	7	3	120	27
緑区	3	46	95	74	45	45	7	315	72
港区		1	1	2				4	1
計	4	60	141	105	67	52	10	439	100

注) 年齢は初診時満年齢である。

表2-2 名古屋市中心療育センター・地域療育センターの相談歴

(2023年度、単位：人)

	緑区	南区	計
名古屋市中心療育センター	5		5
東部地域療育センター	2		2
北部地域療育センター			0
西部地域療育センター			0
計	7	0	7

表2-3 主訴(症状)

(2023年度、単位：人)

主訴	就学前児童							計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳		
言語発達		33	102	55	24	13	2	229	52.1
知的発達			2			2	1	5	1.1
運動発達		14	2					16	3.6
全体発達	4	8	3	2	1	5		23	5
性格行動		5	32	48	42	32	7	166	37.8
計	4	60	141	105	67	52	10	439	100

注) 年齢は初診時満年齢である。

表 2-4 センターへの紹介経路

(2023年度、単位：人)

紹介機関	就学前児童							計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳		
保健センター		34	91	61	18	18	1	223	50.8
医療機関	4	16	15	2	3		1	41	9.3
保育園		2	17	22	24	20	2	87	19.8
幼稚園			3	3	3	3		12	2.7
認定こども園		1	2	5	4	2	2	16	3.6
学校							1	1	0.2
地域療育センター				3	3	1		7	1.6
児童相談所				2				2	0.5
いこいの家				1				1	0.2
知人			1		1		1	3	0.7
家族		4	4		5			13	3
その他		3	8	6	6	8	2	33	7.5
計	4	60	141	105	67	52	10	439	100

注) (1) 年齢は初診時満年齢である。

(2) その他はインターネットなどである。

表 2-5 障害種別状況

(2023年度、単位：人)

障害種別	就学前児童							計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳		
知的障害	2	3	1	9	7	11		33	7.5
自閉症		3	16	17	11	15	3	65	14.8
自閉症+知的障害				6	4	1		11	2.5
肢体不自由		2						2	0.5
言語発達障害等		34	120	68	39	19	5	285	64.9
その他	2	17	3	5	5	4	1	37	8.4
適正		1	1		1	2	1	6	1.4
計	4	60	141	105	67	52	10	439	100

注) (1) 年齢は初診時満年齢である。

(2) 言語発達障害には境界域、ADHD、吃音を含む。

表 2 - 6 診断区分別状況

(2023 年度、単位：人)

診断区分		就 学 前 児 童						計	%	
		0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳			6 歳
知的障害	ダウン症候群	2	1				1		4	0.9
	その他の症候群		1	1		1	2		5	1.1
	水頭症		1						1	0.2
	知的障害		2	1	9	7	8		27	6.1
	自閉症		3	16	24	14	17	3	77	17.5
	言語発達遅滞		33	108	47	18	4	1	211	48
	構音障害			1	4	5	4	1	15	3.4
	吃音			2		2	2		6	1.4
	脳性麻痺		1						1	0.2
	中枢性協調障害				1	2	1		4	0.9
	急性脳症後遺症		1						1	0.2
	運動発達遅滞	2	14	2	2	2	1		23	5.2
	境界域				1	1		1	3	0.7
	多動症		1	8	15	13	8	2	47	10.7
	正常域		1	1		1	1	1	5	1.1
	その他		1	1	2	1	3	1	9	2
	計	4	60	141	105	67	52	10	439	100

注) (1) 年齢は満年齢である。

(2) 運動発達遅滞はその他より、新たに項目として設けた。

(3) 診断区分は複数の診断名がある場合、重なる 1 つの診断名が属する区分で計上した。

表 2 - 7 処遇方針作成状況

(2023 年度、単位：件)

処遇方針	就 学 前 児 童							計
	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	
経過観察		1	1	1	3	18	10	34
発達相談	4	59	140	105	63	34		405
P T 訓練	1	13	1					15
O T 訓練				8	15	7	1	31
S T 訓練				1	10	19	3	33
M T 訓練			2					2
摂食機能訓練		2	1					3
就園前グループ	1	45	85	20				151
並行グループ				5	8	9	2	24
通園施設方向		2	4	4	1	1		12
他機関紹介		1						1
その他	2	1						3
計	8	124	234	144	100	88	16	714

注) (1) 年齢は初診時の満年齢である。

(2) 件数は 2023 年度新規相談者に対し、その年度内に処遇方針を作成した数である。

(3) 処遇方針作成数は実際に処遇を開始した数とは異なる。

(4) 「経過観察」は「発達相談必要時」と同義である。

(5) 「その他」は、「家庭訪問」である。

2023年度 南区・緑区・港区通園希望者

区	就学前児童						計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	
南区			4				4
緑区		4	13	2			19
港区		1					1
計		5	17	2			24

注) 年齢は2023年度の学年齢である。

進路先内訳 南部地域療育センターそよ風 23人
 発達センターあつた 1人
 待機児 0人

表2-8 処遇方針追加変更状況

(2022年度、単位：件)

処遇方針	就学前児童						計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	
発達相談		1					1
P T 訓練	1	2				1	4
O T 訓練		1	2	12	23	15	53
S T 訓練			1	10	37	35	83
M T 訓練		2		2	2	1	7
摂食機能訓練	1	1	2			1	5
就園前グループ		11	33				44
並行グループ			1	13	11	5	30
通園施設方向		4	14	1			19
計	2	22	53	38	73	58	246

注) (1) 年齢は学年齢である。

(2) 件数は該当年度に処遇方針を作成した数である。

(3) 処遇方針作成数は実際に処遇を開始した数とは異なる。

2 発達検査および発達相談

(1) 新規相談児童の発達検査

表 2-9 初診の状況 (発達相談)

(2023 年度、単位：人)

区	就 学 前 児 童						計
	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	
南 区	7	38	37	22	6	3	113
緑 区	27	96	102	44	42	7	318
港 区	1	1	3				5
計	35	135	142	66	48	10	436

注) 初診時の検査および初回受付診察後 (241)、合診後の初回相談を含む。
年齢は初診時の満年齢である。

(2) 継続相談児童の発達検査、および発達相談

・継続時のフォロー状況 (延べ人数) は、前年度 986 人、今年度 1007 人

表 2-10 継続相談児童のフォロー状況

(2023 年度、単位：件)

区	就 学 前 児 童						計
	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	
南 区		5	46	49	69	105	274
緑 区	2	37	88	175	220	195	717
港 区			6	3	1	6	16
合 計	2	42	140	227	290	306	1007

注) 年齢は継続相談時の学年齢である。

・来所回数 (単位：人)

回数	人 数	割 合
1 回	684	81.3%
2 回	149	17.7%
3 回	7	0.8%
4 回	1	0.1%
計	1007	100%

実人数 841 人

(3) 検査結果

表 2 - 11 年齢別検査結果

(2023 年度、単位：人)

検査数値	就学前児童						計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳		
20 以下			4	2	1	4	11	1.3
21 ~ 35			3	2	7	11	23	2.7
36 ~ 50		7	10	13	18	18	66	7.8
51 ~ 75	1	12	46	57	62	38	216	25.7
76 以上		20	56	110	146	193	525	62.4
計	1	39	119	184	234	264	841	100

注) 年齢は学年齢である。

表 2 - 12 障害別検査結果

(2023 年度、単位：人)

障害種別	1度	2度	3度	4度	非該当	計
	20以下	21~35	36~50	51~75	76以上	
知的障害		8	26	81	10	125
自閉症		13	38	115	225	391
言語発達障害等				14	227	241
肢体不自由		1	2	1	4	8
重心	11	1				12
聴覚				1		1
視覚						0
適正					5	5
その他(保健)					32	32
未決定				4	22	26
計	11	23	66	216	525	841

3 初診前サポート事業

2021年7月から開始した初診前サポート事業も3年目となり、保健センターや園などに広く知られるようになった。また2023年7月には地域支援・調整部門も立ち上がり、安定的な体制のもとで運営できるようになった（実施総数は前年度比21人増）。

今年度の実施総数は325人で、年少児、年中児がともに前年度比1.2倍、1,2歳児の在園児が前年度比1.1倍（10人増）であった。在園児の割合は、ここ数年の傾向からも今後も増えていくと予想される。

初診前サポートを経過したうち、1,2歳児は206人中204人が初診へ、年少、年中児は119人中115人が初診につながった。初診につながらなかった6人は、心配がなくなった、入園後の様子を見たい、保育園と相談したい、後日予約の予定だったが予約が入らず、といった理由である。

また、電話で初診前サポートの予約をとったが、その後にキャンセルになったのは、1,2歳児が6人、年少、年中児が4人であった。キャンセルの理由は、心配がなくなった、他機関に相談する、様子を見たい、体調不良や都合がつかずキャンセルした後に再予約の電話なし、といったものであった。

電話受付から初診前サポートに来所するまでの平均は、1,2歳児は25.3日、3歳児以上は39.0日、総平均は31.0日であり、おおむね1か月ほどでつながっている。

表2-13 インテーク実施状況（年齢別） (2023年度、単位：人)

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
就園		30	77	69	48	1	225
未就園	7	49	43		1		100
合計	7	79	120	69	49	1	325

表2-14 インテーク実施状況（月別） (2023年度、単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
就園児	15	15	15	22	17	22	22	11	21	20	20	25	225
未就園児	12	4	6	9	7	9	10	9	10	8	3	13	100
計	27	19	21	31	24	31	32	20	31	28	23	38	325

表 2 - 15 区別状況

1.2 歳児

(2023 年度、単位：人)

区	0 歳児	1 歳児	2 歳児	計
南 区	1	17	45	63
緑 区	6	61	75	142
港 区		1		1
計	7	79	120	206

3 歳児以上

(2023 年度、単位：人)

区	3 歳児	4 歳児	5 歳児	計
南 区	25	8		33
緑 区	43	41	1	85
港 区	1			1
計	69	49	1	119

表 2 - 16 処遇方針 (2023 年度、単位：件)

処遇	合計
療育グループ	97
他機関紹介	0
1, 2 歳児初診	189
一般初診	136
終了	0
初サポ巡回	7
計	429

表 2 - 17 初診前巡回

(2023 年度、単位：件)

	保育園	幼稚園	認定こども園	計
3 歳児	4		1	5
4 歳児	1	1		2
計	5	1	1	7

4 療育グループ

(1) 就園前グループ

- ・0・1・2・3歳児の発達に不安のある就園前の子どもを対象に親子教室を実施した。そよ風にて、ぐんぐん教室9グループ、緑区の子どもセンターみどりにてぴよんぴよん教室5グループ、子どもセンターとくしげにてにここ教室3グループを実施した。
- ・1歳児グループは、ニーズに応じて今年度より毎週開催とした。
- ・保育園在園児は隔週参加とし、1歳児は4人、2歳児は11人の登録があった。
- ・育休復帰や満3入園の数が増えており、1歳児のうちから就園相談をする必要が高まっている。
- ・2歳児グループでは、就園を見据え、2月よりおやつのかわりにおにぎりを家庭から持参してもらった。

表2-18 過去10年の就園前グループ実施人数 (2023年度、単位：人)

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	合計	並行利用
2014年度	13	90 (10)	152 (26)	3	258 (36)	8
2015年度	15 (2)	88 (9)	134 (25)	7 (4)	244 (40)	19
2016年度	11	84 (2)	127 (27)	5 (2)	227 (30)	17
2017年度	8	71 (5)	118 (29)	6 (2)	203 (36)	19
2018年度	6	69 (2)	124 (17)	5 (5)	203 (23)	17
2019年度	5	49 (2)	108 (12)	5	167 (14)	14
2020年度	4	74 (2)	119 (12)	5 (2)	202 (16)	21
2021年度	12	88 (5)	122 (23)	3	225 (28)	17
2022年度	16 (3)	67 (7)	108 (35)	5 (3)	196 (48)	25
2023年度	13 (4)	77 (9)	96 (27)	2 (1)	188 (41)	15

注) ()内は途中終了児(再掲)

表2-19 就園前グループの実施状況

(2023年度、単位:人)

	グループ名	実施状況	年齢					職員体制
			0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	合計	
ほろこ教室 その風 東館	かば	月曜日			18 (6)	1	19 (6)	保育士1 児童指導員1 発達相談員2
	りす	火曜日		9			9	保育士1 児童指導員1 CW1
	くま	火曜日		10 (2)			10 (2)	保育士2 ST1
	らいおん	水曜日			19 (5)	1 (1)	20 (6)	保育士2 発達相談員1 ST1
	ひよこさぎ	金曜日	7 (2)	13 (1)	3		23 (3)	保育士1 児童指導員1 CW1,PT2 看護師1
	まめ	金曜日	3 (2)	2 (1)			5 (3)	児童指導員1 CW2
	あひる	木曜日隔週		8			8	保育士1 パート保育士1 発達相談員1
	ブレ	木曜日隔週 7月開始	1	2			3	保育士1 パート保育士1 発達相談員1
	ブレぐん	3月13日		3			3	保育士 児童指導員
子どもセンターみどり	ちゅうりっぷ	火曜日		11 (3)			11 (3)	保育士1 児童指導員2
	ばら	水曜日 6月開始		10 (2)			10 (2)	保育士1 児童指導員1 パート保育士1
	たんぽぽ	木曜日			14 (4)		14 (4)	児童指導員2 発達相談員1 パート保育士1
	すみれ	金曜日			14 (3)		14 (3)	保育士2 発達相談員2
	プレぴよん	3月12日	2	3			5	保育士 児童指導員
子どもセンターこっこ	あしか	月曜日			15 (5)		15 (5)	児童指導員1 CW1 パート保育士1
	ぺんぎん	水曜日			13 (4)		13 (4)	児童指導員2 パート保育士2
	プレにこ			6			6	保育士 児童指導員
			13 (4)	77 (9)	96 (27)	2 (1)	188 (41)	

- 注) (1) () は途中終了児
(2) 年度途中の移行児は最終グループで計上
(3) プレグループは新規児のみ計上

① 療育目標

- ・子どもの要求を大切に、興味を広げ、意欲的に生活し、あそぶ力を育てる。
- ・親子あそびを通して、保護者と一緒に楽しくあそぶ経験を積んでいく。
- ・食事・排泄・着替えなどの基本的な生活習慣の自立を家庭と共に考えあう。
- ・生活基盤、生活リズムの確立を通し、健康的な身体づくりをすすめる。
- ・姿勢、運動面への働きかけと、見る・聴く・触れるなど感覚への働きかけを大切にする。

② 日 課

- ・子どもの24時間の生活リズムを家族と共に考え、日課づくりを行った。
- ・1歳児グループは1歳児の生活を見直し、日課の流れを変更した。これまでは11時ごろにおやつを提供していたが、生理的に満たされずに気持ちが崩れてしまう子も見られた。自由あそび後に摂るおやつの時間を設けることで、親子でひと息つき、おやつを食べて気持ちが満たされ、スッキリした気持ちでとりくみに向かっている。
- ・とりくみ内容は子どもの要求・発達・親子の様子を考慮する。

2歳児グループの日課

9:45	登室・健康チェック 自由あそび・連絡ノート受け渡し
10:15	おはようのつどい おはようの歌・呼名 手あそび・親子あそび・体操
10:30	排泄
10:40	とりくみ
11:00	おやつ
11:15	さようならのつどい 絵本・さようならの歌

1歳児グループの日課

9:30	登室・健康チェック 自由あそび・連絡ノート受け渡し
10:00	おやつ
10:15	排泄
10:25	おはようのつどい おはようの歌・呼名 手あそび・親子あそび・体操
10:40	とりくみ
11:00	さようならのつどい 絵本・さようならの歌

ひよこ・うさぎグループの日課

9:45	登室・健康チェック・問診 自由あそび・連絡ノート受け渡し
10:20	おはようのつどい おはようの歌・呼名 手あそび・親子あそび
10:35	とりくみ おむつ替え
11:00	おやつ
11:30	さようならのつどい 絵本・さようならの歌

年間行事

4月		10月	親子遠足
5月	こどもの日	11月	絵本の学習会
6月	就園学習会	12月	クリスマス会
7月	七夕	1月	お正月
8月		2月	節分
9月		3月	おわりのつどい

※年3回ほど交流会を行う

表 2 - 20 就園前グループ障害種別状況

(2023 年度、単位：人)

障 害 種 別	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	計
知 的 障 害	4	8	5		17
肢 体 不 自 由	1	2			3
肢体不自由+知的障害					
自 閉 症		6	19		25
自閉症+知的障害		1	8	1	10
言語発達障害等	3	49	61	1	114
重 心			2		2
保 健	5	11	1		17
計	13	77	96	2	188

表 2 - 21 就園前グループ別状況

(2023 年度、単位：人)

区	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	計
南 区	3	14	27	1	45
緑 区	10	61	68	1	140
港 区		2	1		3
計	13	77	96	2	188

表 2 - 22 就園前グループ進路先状況

(2023 年度、単位：人)

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	計
通 園 施 設		3	10		13
公 立 保 育 園		3	12		15
民 間 保 育 園	3	14	8		25
公 立 幼 稚 園			4		4
民 間 幼 稚 園			34		34
認 定 こ ど も 園			18		18
グ ル ー プ 継 続	6	39			45
みどりそよ風		3			3
デイサービス ACT					0
児童発達支援事業所		1			1
転 居 終 了	2	2	5	1	10
経 過 良 好 終 了	1	10	3		14
そ の 他	1	2	2	1	6
計	13	77	96	2	188

表2-23 就園前グループ月別在籍人数

(2023年度、単位:人)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月初の数	0	56	89	97	103	109	116	122	130	132	134	122
月末の数	56	78	97	103	109	116	122	130	132	134	122	0
新入児の数	62	28	23	10	10	13	15	12	10	9	3	15
終了児の数	6	6	4	4	4	6	9	4	8	7	15	137

注) (1) 4月の月初の数は開始した人数を示しているため、0としている。

(2) 3月の月末の数は全員終了としたため、0としている。

表2-24 就園前グループ月別参加人数(延べ数)

(2023年度、単位:件)

	グループ名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
ぐんぐん教室	かば	18	34	33	31	25	19	32	31	36	26	25	10	320	
	らいおん	14	25	39	31	39	38	22	24	27	24	42	10	335	
	くま	2	16	13	16	15	24	33	26	18	22	25	7	217	
	りす			4	13	16	17	25	17	17	17	23	26	7	165
	あひる								9	14	6	20		49	
	まめ	6	4	4	9	3	6	9	3	15	6	1	4	70	
	ひよこうさぎ	17	15	19	15	11	25	24	11	27	29	21	10	224	
	プレ									2	5	6		13	
	プレぐん												3	3	
ぴよんぴよん教室	ちゅうりっぷ	13	19	20	18	22	27	32	26	19	19	18	8	241	
	ばら			6	5	11	19	28	30	18	27	26	8	178	
	たんぽぽ	9	15	28	23	20	23	28	31	22	24	34	8	265	
	すみれ	19	17	30	24	21	39	27	15	34	21	22	18	287	
	プレぴよん												5	5	
にこにこ教室	あしか	15	29	17	26	27	27	27	23	30	20	22	8	271	
	ぺんぎん	14	24	27	27	21	25	26	31	22	25	27	6	275	
	プレにこ												6	6	
	計	127	198	240	238	231	289	313	277	301	277	315	118	2924	

③ グループ健康会議

ひよこ・うさぎグループを中心に、子どもの健康状況のとらえを共有することを目的に、小児科医師・看護師・保育士・児童指導員により、年2回、健康会議を実施した。また、会議の中で、健康や障害についての学習会を行った。

(2) 就園前グループアフターのつどい

2022年度就園前グループを終了した保護者を対象に交流会を実施した。延べ40名が参加した。グループ終了後の親子の状況を捉え、園生活の状況の共有、保護者同士の交流をおこなった。

アフターのつどい 実施状況

グループ名		日程	場所	参加人数
ぐんぐん教室	かば	2023/6/13	そよ風	5人
	らいおん	2023/6/6	そよ風	5人
	きりん	2023/6/6	そよ風	1人
ぴよんぴよん教室	さくら	2023/6/5	子どもセンターみどり	3人
	たんぽぽ	2023/6/5	子どもセンターみどり	8人
	すみれ	2023/6/7	子どもセンターみどり	7人
にこにこ教室	あしか	2023/6/8	子どもセンターとくしげ	7人
	ぺんぎん	2023/6/8	子どもセンターとくしげ	4人

(3) 並行グループ

- ・ 並行グループ（さんさん教室）は2週に1度のグループをそよ風東館にて6グループ、子どもセンターとくしげにて2グループ実施した。月1回土曜日に、1グループを通年でそよ風東館にて実施した。合計9グループ実施した。
- ・ 2週に1回のグループは14:30～16:00、土曜日の月1回のグループは10:00～11:30で実施している。
- ・ グループ編成は年齢、発達状況、家庭状況を考慮した。

表2-25 並行グループの実施状況

(2023年度、単位:人)

	実施状況	対象児の障害	年齢				職員体制
			3歳児	4歳児	5歳児	計	
そよ風東館 (4～9月) 前半期	ひこうき (第2・4火曜)	ASD 会話・MR		3	4	7	保育士1 児童指導員1 発達相談員2 ST1
	しんかんせん (第1・3火曜)	ASD ADHD MR・会話・ 運動	2	3	2	7	保育士2 発達相談員2 ST1
	ばす (第1・3木曜)	ASD・MR・ ADHD・ DCD・会話・ 構音		4	3	7	保育士1 児童指導員2 発達相談員1 ST1
子どもセンター	よっと (第2・4木曜)	ASD 言語		1	4	5	保育士1 児童指導員2 発達相談員1
そよ風東館 (10～3月) 後半期	へりこぶたー (第1・3・5火曜)	ASD・MR・ 言語	7			7	保育士2 児童指導員1 発達相談員1 ST1
	ばす (第2・4火曜)	MR・会話・ 運動	3	4		7	保育士1 児童指導員1 発達相談員2 ST1
	しんかんせん (第1・3・5木曜)	ASD 会話		1	3	4	保育士1 児童指導員1 発達相談員2 ST1
子どもセンター	よっと (第2・4木曜)	ASD・MR・ ADHD・ 会話	4	1	1	6	保育士1 児童指導員2 発達相談員1
そよ風東館 (5～3月) 通年	きしゃ (月1回土曜)	ASD 会話		5	2	7	児童指導員2 発達相談員1 ST1
			16	22	19	57	

① 療育目標

- ・とりくみを通して達成感を味わい、自信につなげていく。
- ・身体や手先の使い方を知っていく。
- ・友だちとあそぶ楽しさを知る。

② 日 課

14:30	登室・健康チェック
(10:00)	自由あそび（描画、パズルなど） 連絡ノート受け渡し
15:00	こんにちはのつどい
(10:30)	スケジュール確認 呼名 とりくみ① おやつ とりくみ② おわりのつどい シール貼り
16:00	さようなら
(11:30)	

注) 月1回土曜日のグループの時間は（ ）内。

表2-26 並行グループ障害種別状況

(2023年度、単位:人)

障害種別	3歳児	4歳児	5歳児	計
知的障害	3	4	1	8
自閉症+知的障害	4	2		6
自閉症	4	10	15	29
言語発達障害等	5	3	3	11
その他保健				0
未決定		3		3
計	16	22	19	57

注) 前半期、後半期ともに参加した児は、ダブルカウントとしている。

表2-27 並行グループ区別状況

(2023年度、単位:人)

区別	3歳児	4歳児	5歳児	計
南区	2	7	6	15
緑区	14	15	13	42
港区				0
計	16	22	19	57

注) 前半期、後半期ともに参加した児は、ダブルカウントとしている。

表2-28 並行グループ在籍児の所属園

(2023年度、単位：人)

区 分	3歳児	4歳児	5歳児	計
公立保育園	4	3	4	11
民間保育園	5	3	6	14
公立幼稚園		1	1	2
民間幼稚園	2	9	3	14
認定子ども園	3	6	5	14
そ の 他	2			2
計	16	22	19	57

注) 前半期、後半期ともに参加した児は、ダブルカウントとしている。

表2-29 並行グループ月別在籍人数

(2023年度、単位：人)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月初の数	0	12	30	33	33	33	6	28	28	28	27	27
月末の数	12	30	33	33	33	6	28	28	28	27	27	0
新入児の数	12	18	3	0	0	0	25	0	0	0	0	0
終了児の数	0	0	0	0	0	27	3	0	0	1	0	27

表2-30 並行グループ月別参加人数(延べ数)

(2023年度、単位：件)

	グループ名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
前半	ひこうき	7	12	12	10	9	7							57
	しんかんせん		6	18	12	12	6							54
	ばす		7	10	10	10	10							47
	よっ と	5	10	10	6	10	5							46
後半	へりこぶたー							12	11	11	12	12		58
	しんかんせん							8	9	8	3	9		37
	ばす							16	11	11	10	9		57
	よっ と							9	9	4	6	9	5	42
通年	きしや	0	7	5	3	0	4	3	3	2	3	1	3	34
	計	12	42	55	41	41	32	48	43	36	34	40	8	432

表 2 - 31 並行グループ終了状況

(2023 年度、単位：人)

区 分		3 歳 児	4 歳 児	5 歳 児	計
小 学 校	通 常 学 級			13	13
	特別支援学級・学校			2	2
グ ル ー プ 継 続		3	3	1	7
通 園 施 設					0
転 居					0
経 過 良 好 終 了		13	19		32
不 明				3	3
計		16	22	19	57

注) 前半期、後半期ともに参加した児は、ダブルカウントとしている。

③ グループ見学会

- ・各グループで見学会を行い、前半期と後半期合わせて延べ、保育園が 15 ケ園、幼稚園が 9 ケ園、認定こども園が 2 ケ園の参加があった。
- ・グループのとりくみ終了後、保護者と参加した園の先生、グループスタッフで懇談する時間を設けた。

表 2 - 32 並行グループ見学会参加状況

そよ風東館	前半期 (4～9月)	ひこうき	2023年6月27日	2ケ園2名
		しんかんせん	2023年7月6日	2ケ園2名
			2023年8月3日	2ケ園3名
		ばす	2023年7月4日	2ケ園2名
			2023年7月18日	1ケ園2名
子どもセンター とくしげ		よっと	2023年6月22日	2ケ園2名
			2023年7月27日	1ケ園1名
そよ風東館	後半期 (10～3月)	へりこぷたー	2023年12月5日	1ケ園1名
			2023年12月19日	1ケ園2名
		しんかんせん	2023年12月21日	2ケ園2名
			ばす	2023年12月12日
		2024年1月9日		2ケ園2名
子どもセンター とくしげ		よっと	2023年12月14日	1ケ園1名
			2024年1月25日	1ケ園1名
そよ風東館	通年 (5～3月)	きしゃ	2023年9月30日	1ケ園2名
			2023年11月18日	1ケ園2名

注) 複数回来所の園あり 表内は延べ園数

5 保護者向け学習会

(1) 年長児保護者向け学習会

表 2 - 33

月日	内容	講師	参加人数	対象
2023.6.1	就学講演会	教育センター 副田先生	参加 120 人	年長児保護者

- ・就学前の保護者を対象に講演会を実施した。
- ・会場は、緑文化小劇場で行った。

第3 医療事業

1 診療

小児科（常勤1名、非常勤2名）、整形外科（非常勤1名、週2回）、耳鼻咽喉科（非常勤1名、週1回）、精神科（非常勤1名、月1回）による診療を行っている。看護師は外来常勤2名と通園部に常勤1名である。保健師は常勤2名、非常勤1名でケースワーカー業務を行っている。

診療の中で発達相談事業の初診は週4日、再診は週4日、通園児（そよ風・あつた）と保育園児の健診等を行っている。

検査としては、聴力検査週1回、X線検査月2回、聴性脳幹反応(ABR)は必要時に実施している。

(1) 小児科

① 新規患者について

- ・初診前サポート事業の開始により、初診の方法は以下の通りである。
 - a. 一般初診：ケースワーカーによる問診、発達相談員による発達検査を経て、小児科医師の診察 3、4歳児は、初診の前に初診前サポートあり（初診前サポート事業参照）
 - b. 1、2歳児初診：初診前サポートでの集団遊びと面談の後、小児科医師の診察
 - c. 合診：小児科医、整形外科医の診察
- ・新規患者数（表2-1）；2023年度の初診患者総数は439人で、2022年度全初診数425人とほぼ変化がない。
- ・診断種別状況（表2-5）：自閉症は2022年度152人（35.8%）から2023年度65人（14.8%）に減少、言語発達遅滞等は2022年度210人（49.4%）から285人（64.9%）に増加している。これは初診時に自閉症と断定できずに、自閉症の特性がある児も経過観察中は言語発達遅滞とするようにしたことによる。

②小児科発達外来再診（表3-1）

- ・延べ人数792人、実人数636人であった。年齢では1・2・5歳児が増加しており、特に5歳児の増加が顕著である。

③長期投薬数（表3-3）

- ・小児期の神経発達症に伴う入眠困難等の児への内服治療（メラトベル）の処方が年々増えている。

④小児科定期診察

- ・通園児（表3-4）

重心児が2019年から年々減少していることも影響し、対象児が減少。けいれん、アレルギーなどの基礎疾患がある児・医療的ケア児・退院後の診察など、必要な児をピックアップして実施している。
- ・ひよこさぎグループ・あいあい組（表3-5）

グループ所属の児に、1人当たり年1回の定期診察を行った。

⑤健康会議

診療部と通園部で、子どもの健康の理解を進め、諸行事（宿泊療育など）のときの注意点、単独保育への移行や通園バス乗車の配慮点などについて話し合い、安全に行えるよう支援している。

療育グループ、発達センターあつたとも同様に定期的に健康会議を実施している。(2回/年ずつ)

⑥看護師の業務

(a) 診療や健康診断介助、健康診断報告に関する業務など。

(b) 通園部での健康管理：健康観察と医療的ケア或いはその指導、援助。

医療的ケアを必要とする児は4名であった。相談診療部の看護師も通園看護師と交代で昼に巡回を行い、健康状況の把握・感染症の予防に努めている。

健康学習会（保護者向けに季節の病気、発達や障害などの学習）、毎日の健康チェック、重症児の医療的ケア、健康診断（年2回）を行い、必要のある児には定期診察、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科受診を勧めている。

(c) 訪問療育指導

(d) 0.1歳児グループ療育

⑦その他

コロナ等感染対策のため、利用者およびその家族周辺の健康状態を看護師保健師で聞き取り、感染予防に努めながら外来運営を行った。

表3-1 小児科発達外来再診

(2023年度、単位：件)

診断区分	就学前児童						小学生		中学生	他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年				
知的障害	ダウン症候群	4 (2)	12 (5)	2 (1)	3 (2)	2 (2)	2 (2)	2 (2)			27 (16)	3.4 (2.5)
	その他の症候群		1 (1)	6 (5)	2 (1)	1 (1)	1 (1)				11 (9)	1.4 (1.4)
	小頭症										0 (0)	0.0 (0.0)
	水頭症					1 (1)					1 (1)	0.1 (0.2)
	てんかん										0 (0)	0.0 (0.0)
	知的障害	2 (1)	26 (18)	31 (29)	19 (15)	11 (10)	27 (20)					116 (93)
自閉症	2 (1)	12 (9)	43 (37)	58 (51)	101 (76)	150 (113)	8 (8)				374 (295)	47.2 (46.4)
言語発達遅滞		18 (15)	44 (36)	18 (16)	16 (14)	24 (20)					120 (101)	15.2 (15.9)
構音障害			1 (1)		3 (3)	10 (8)					14 (12)	1.8 (1.9)
吃音			1 (1)								1 (1)	0.1 (0.2)
知的障害+脳性麻痺						2 (1)					2 (1)	0.3 (0.2)
脳性麻痺+知的障害				1 (1)							1 (1)	0.1 (0.2)
脳性麻痺		4 (2)									4 (2)	0.5 (0.3)
急性脳症後遺症		1 (1)			2 (2)						3 (3)	0.4 (0.5)
中枢性協調障害						2 (2)					2 (2)	0.3 (0.3)
運動発達遅滞	7 (6)	11 (7)		2 (2)	3 (2)	1 (1)					24 (18)	3.0 (2.8)
多動症			11 (10)	2 (2)	8 (7)	20 (18)					41 (37)	5.2 (5.8)
正常域						6 (5)					6 (5)	0.8 (0.8)
境界域			4 (3)	4 (3)	7 (7)	8 (7)					23 (20)	2.9 (3.1)
難聴											0 (0)	0.0 (0.0)
整形外科疾患											0 (0)	0.0 (0.0)
筋ジストロフィー	3 (1)										3 (1)	0.4 (0.2)
その他			2 (2)	4 (3)	6 (6)	7 (7)					19 (18)	2.4 (2.8)
合計	18 (11)	85 (58)	145 (125)	113 (96)	161 (131)	260 (205)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	792 (636)	100 (100)

注) (1) () は実人数である。

(2) 年齢は、学年齢である。

表3-2 小児科一般外来

(2023年度、単位:件)

診断区分	就学前児童						小学生		中学生	他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年				
知的障害	ダウン症候群	1 (1)		2 (2)	1 (1)			2 (1)			6 (5)	9.7 (16.1)
	その他の症候群					1 (1)	4 (1)				5 (2)	8.1 (6.5)
	知的障害			1 (1)	1 (1)	1 (1)					3 (3)	4.8 (9.7)
	水頭症										0 (0)	0.0 (0.0)
自閉症				6 (4)	23 (9)	10 (2)					39 (15)	62.9 (48.4)
言語発達遅滞			1 (1)	5 (2)							6 (3)	9.7 (9.7)
知的障害+脳性麻痺						1 (1)					1 (1)	1.6 (3.2)
脳性麻痺+知的障害								1 (1)			1 (1)	1.6 (3.2)
急性脳症後遺症							1 (1)				1 (1)	1.6 (3.2)
脳性麻痺											0 (0)	0.0 (0.0)
合計	1 (1)	0 (0)	4 (4)	13 (8)	25 (11)	15 (4)	3 (2)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	62 (31)	100 (100)

注) (1) () は実人数である。

(2) 年齢は、学年齢である。

(3) 長期投薬外来の受診児も含む。

表3-3 長期投薬

(2023年度、単位:人)

診断名	学齢区分						
	0~2歳	3~5歳	低学年	高学年	中学生	その他	計
知的障害+自閉症		7					7
自閉症		1					1
A D H D							0
知的障害/知的障害+脳性麻痺		1					1
その他	1	3	1				5
合計	1	12	1	0	0	0	14

注) 管理数の内訳は、継続2名、再開2名、新規10名。

次年度への継続児は9名。精神科へ移行が1名。終了は4名(すべて転院)。

表3-4 小児科定期診察（通園児）

（2023年度、単位：件）

診断区分		就学前児童					計	%	
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳			5歳
知的障害	ダウン症候群					2 (1)	2 (1)	9.1 (6.7)	
	その他の症候群						0 (0)	0.0 (0.0)	
	水頭症					1 (1)	1 (1)	4.5 (6.7)	
	知的障害			3 (1)	3 (2)	2 (1)	3 (2)	11 (6)	50.0 (40.0)
その他の症候群						1 (1)	1 (1)	4.5 (6.7)	
脳性麻痺＋知的障害					1 (1)		1 (1)	4.5 (6.7)	
知的障害＋脳性麻痺						1 (1)	1 (1)	4.5 (6.7)	
自閉症				1 (1)		4 (3)	5 (4)	22.7 (26.7)	
急性脳症後遺症							0 (0)	0.0 (0.0)	
合計		0 (0)	0 (0)	4 (2)	4 (3)	9 (6)	5 (4)	22 (15)	100 (100)

注) (1) () は実人数である。

(2) 年齢は、学年齢である。

(3) 障害種別では「重心」となる児が4名である。

(4) 診断区分は自閉症や知的障害となっている児の中に、その他症候群・てんかんなどの疾患を重複している児を含む。

表3-5 小児科定期診察（療育グループ等）

（2023年度、単位：件）

グループ名	0歳	1歳	2歳	計
ひよこ・うさぎG	7 (4)	25 (13)	3 (2)	35 (19)
あいあい組			9 (6)	9 (6)

注) (1) () は実人数である。

(2) 年齢は学年齢である。

(3) 定期診察は、小児科再診と兼ねて実施した。

(2) 整形外科

- ・新規受診者数は40名。
- ・整形外科来全体の実人数は193名。うち、通園児は17名であった。
- ・今年度、終了数13名（歩行安定、高校卒業児、転院）、PTオーダーは17名（合診から12名、初診から1名、経過フォロー児から4名）、OTオーダーは6名であった。

表3-6 整形外科診断区分別状況（新規）

（2023年度、単位：人）

区 分	就 学 前 児 童							小 学 生		中学生	他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
知的障害												0	0.0
ダウン症候群	3											3	7.5
脳性麻痺		2										2	5.0
脳性運動障害												0	0.0
運動発達遅滞	13	9	1									23	57.5
神経・筋疾患												0	0.0
骨・関節疾患			1									1	2.5
後天性要因による運動障害												0	0.0
正 常				1								1	2.5
その他先天性障害		1										1	2.5
そ の 他		2	2	3	1	1						9	22.5
計	16	14	4	4	1	1	0	0	0	0	0	40	100.0

- 注) (1) 年齢は満年齢である。
 (2) その他には、尖足・外反扁平足・歩容異常・内転足等を含む。
 (3) その他先天性障害は、先天性心疾患である。

表3-7 整形外科診断区分別状況（装具外来延べ人数）

（2023年度、単位：件）

区 分	就 学 前 児 童							小 学 生		中学生	他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年					
知的障害			2								2	4	1.5
ダウン症候群		3		4		5	13	7	7	3	42	16.2	
脳性麻痺		2	1	6	5	9	7	17	9	6	62	23.8	
脳性運動障害			14	6	3		10	9	2		44	16.9	
運動発達遅滞		11	10	9			4				34	13.1	
神経・筋疾患											0	0.0	
骨・関節疾患						4					4	1.5	
後天性要因による運動障害									2		2	0.8	
二分脊椎											0	0.0	
その他の先天性障害			8		5	4					17	6.5	
そ の 他		6	6	20	1	4	11	2	1		51	19.6	
合 計	0	22	41	45	14	26	45	35	21	11	260	100.0	

- 注) (1) 年齢は学年齢である。
 (2) その他は、尖足・歩容異常・外反扁平足・内転足・内反足等である。
 (3) 運動発達遅滞には、ウエスト症候群等のてんかん発作の児も含む。

表 3 - 8 整形外科診断区分別状況（定期診察延べ人数）

（2023 年度、単位：件）

区 分	就 学 前 児 童						小 学 生		中学生	他	計	%
	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	低学年	高学年				
知 的 障 害		1	4								5	2.3
ダウ ン 症 候 群	5	11	3	3	1	2	4	3	5	3	40	18.4
脳 性 麻 痺		5	2	6	2	5	2	12	3	3	40	18.4
脳 性 運 動 障 害			3		3		7	2	1		16	7.4
運 動 発 達 遅 滞	8	30	8	7	1						54	24.9
神 経 ・ 筋 疾 患	2					1					3	1.4
骨 ・ 関 節 疾 患			1								1	0.5
後天性要因による運動障害			2						3		5	2.3
二 分 脊 椎											0	0.0
その他の先天性障害		1	3		5			1	1		11	5.1
そ の 他		8	5	13	5	6	3	1	1		42	19.4
合 計	15	56	31	29	17	14	16	19	14	6	217	100.0

注) (1) 年齢は学年齢である。

(2) その他は、尖足・歩容異常・外反扁平足・内転足等である。

(3) 運動発達遅滞には、ウエスト症候群等のてんかん発作の児も含む。

(3) 耳鼻咽喉科

- ・当センターの耳鼻咽喉科診療目的は、疾患の早期発見・早期治療、聴覚の管理である。
- ・今年度当科を受診した患児の総数は242名であった。終了176名、そのうち新規での終了は135名であった。
- ・新規数・継続の人数は昨年とほぼ同数であった。
- ・新規における言語発達遅滞の占める割合は87%で横ばい、構音障害は7.2%でやや減少した。
- ・その他は、舌小帯短縮・上気道炎・急性鼻炎・アレルギー性鼻炎である
- ・正しい聴覚検査の結果を得る為、耳垢除去も必要である。耳垢除去は新規では101人、継続では32件行った。
- ・通園児の受診数は、14名であった。
- ・自覚的聴力検査を実施するも良好な検査結果が得られず、且つ、ティンパノメトリー、OAE共に実施できなかった児に対して、ABRまたは3歳児健診前後の再検を行うようにしている。
- ・中等度難聴と診断された児が1名あり（2歳児）あいち小児保健医療総合センターに紹介した。この児は新生児スクリーニングでは所見はなかった。

表3-9 耳鼻咽喉科診断区分別状況（新規）

（2023年度、単位：人）

主診断名	就学前児童							小学生		中学生	高校生	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
難聴の疑い				1		1						2	1.1
難聴				1								1	0.6
滲出性中耳炎						1						1	0.6
耳垢塞栓				1		1						2	1.1
言語発達遅滞	1	28	93	27	6	2	1					158	87.3
粘膜下口蓋裂												0	0.0
構音障害				5	4	3	1					13	7.2
正常					1	1						2	1.1
その他				2								2	1.1
計	1	28	93	37	11	9	2	0	0	0	0	181	100

注) 年齢は満年齢である。

表3-10 耳鼻咽喉科診断区別状況（継続）

（2023年度、単位：件）

主診断名	就学前児童						小学生		中学生	高校生	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年				
難聴の疑い											0	0.0
難聴			1								1	1.3
滲出性中耳炎											0	0.0
耳垢塞栓		1				2	1	3	5		12	15.2
言語発達遅滞	1	6	22	8	10	3	1				51	64.6
鼻咽腔疾患								1			1	1.3
構音障害				1	1	2	1				5	6.3
その他				1		1			7		9	11.4
計	1	7	23	10	11	8	3	4	12	0	79	100
実人数	1	7	20	9	9	6	3	3	3	0	61	

注）年齢は学年齢である。

表3-11 聴力検査

（2023年度、単位：件）

区分		就学前児童						小学生		中学生	高校生	計
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年			
自覚的 聴力検査	BOA	1	2	5	2							10
	COR		26	94	37	7	6	1				171
	Peep-Show				9	9	10	2				30
	標準純音聴力検査								1			1
	プレイオーディオ				1							1
合計		0	28	99	49	16	16	3	1	0	0	212

注）年齢は満年齢である。

区分		就学前児童						小学生		中学生	高校生	計
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年			
他覚的 聴力検査	ティンパトリー	1	26	82	39	14	12	3	1			178
	DPOAE		5	46	23	11	8	3				96

注）年齢は満年齢である。

(4) 精神科

- ・新規が5名、継続7名であった。養育者のアセスメント及び支援、児と養育者への精神療法、投薬治療が中心である。
- ・4名が転院終了、8名が次年度へ継続。

表3-12 精神科診断区分状況（新規）

（2023年度、単位：人）

区 分	就 学 前 児 童						小 学 生		中学生	他	計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年			
自閉症(平均知能)					1						1
自閉症(精神遅滞)				1	2						3
A D H D				1							1
精 神 遅 滞											0
そ の 他											0
合 計	0	0	0	2	3	0	0	0	0	0	5

注) 年齢は学年齢である。

表3-13 精神科診断区分別状況（外来延べ人数）

（2023年度、単位：人）

区 分	就 学 前 児 童						小 学 生		中学生	他	計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年			
自閉症(平均知能)					4	5	6				15
自閉症(精神遅滞)				1	20		7	7			35
A D H D				4							4
精 神 遅 滞											0
そ の 他											0
合 計	0	0	0	5	24	5	13	7	0	0	54

注) 年齢は学年齢である。

(5) 検査

表3-14 脳波、ABR、心電図

(2023年度、単位：件)

検査名	就学前児童						小学生		他	計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年		
A B R	1	1	3	1						6
脳波										0
心電図										0

注) 年齢は学年齢である。

表3-15 エックス線写真部位

(2023年度、単位：件)

部位	就学前児童							小学生		中学生	他	計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年			
足部			1	1						2		4
脊柱				2				2	1	3	5	13
股関節		1	5	5		2	1	2	6	3		25
下肢												0
膝		1					1					2
手根骨												0
肘												0
頸椎							2	1			1	4
アデノイド												0
その他							1					1
計	0	2	6	8	0	6	3	4	9	10	1	49
実人数		1	5	5		5	2	3	4	6	1	32

注) 年齢は満年齢である。

(6) 診断書等発行

表3-16 診断書等発行状況

(2023年度、単位：件)

診断書等	小児科	整形外科	耳鼻科	精神科
特別児童扶養手当診断書	44	2		
障害児福祉手当診断書		1		
身体障害者手帳診断書		11		
精神保健福祉手帳診断書				1
補装具意見書		41		
補装具交付証明書		55		
障害証明書				
初診日に関する証明書	8			
私立幼稚園特別支援教育費も関わる診断書	17			
その他診断書	29	1		
紹介状・回答書	415	10	1	5
おむつ意見書		6		
児童福祉法意見書	152			1
計	665	127	1	7

2 訓 練

当センターでは、訓練部門として、個別訓練、生活支援事業（摂食・嚥下機能訓練、通園・療育グループでの摂食指導・療育参加、学校連携）、学習会、巡回療育指導、訪問療育指導、子育て講座、関連診療科との協力等の業務を行った。

(1) 理学療法 (PT)

- ・ 個別訓練は医師の指導監督の下、理学療法士常勤 2 名、非常勤 1 名（～ 6 月）が、施設基準の障害児（者）リハビリテーションに基づいて行った。
- ・ 児童の全身状態や障害状況、運動状況に合わせ、運動療法や呼吸理学療法を行っている。
- ・ 初回評価は、理学療法士 2 名で行った。
- ・ 児童の家庭や保育園での生活を把握しながら、療育的な視点から生活面における指導・援助を行い、訓練・治療内容が児童・家族の日常生活の改善や向上につながるよう努めている。
- ・ 訪問看護や訪問リハビリを受けている児童について、関連機関からの見学があり、当センターでのリハビリ状況や訪問看護・訪問リハの状況の情報共有を行った。
- ・ 座位が不安定な児童に対し、椅子・姿勢保持具等の作製を行った。
- ・ 新規児童は、18 名（2022 年度 29 名）であった。昨年度と比較し、合診の数の減少や他機関でフォローを受けている児童の割合増加により減少している。診断名別に見ると運動発達遅滞が全体の 66.7% で最も多かった（表 3 -）。
- ・ 2023 年度末の時点で医療ケアを必要とする児童は全体で 21 名であった。このうち、複数のケアが必要な児童は 8 名であった。内訳は、気管切開 7 名、酸素吸入 3 名、胃ろう 12 名、経管栄養 6 名、導尿 1 名であった。
- ・ 訓練対象児 106 名のうち、通園児は 15 名であった（そよ風 14 名、あつた 1 名）。あいあい組は 6 名であった。
- ・ 理学療法士 2 名がひよこグループを担当した。
- ・ 3 名に対して、計 5 回巡回療育指導を他職種とともに行った。
- ・ 訪問療育指導を他職種とともに行った。
- ・ 子育て支援センターで子育て講座を行った。

表3-17 PT診断別状況（新規）

（2023年度、単位：人）

主診断名	就学前児童								小学生		中学生	高校生	計	%
	0歳 6ヶ月 未満	0歳 6ヶ月 以上	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
脳性麻痺			1 (1)										1 (1)	5.6
その他の運動障害 (症候群含む)			1 (0)										1 (0)	5.6
後天性要因による 運動障害													0 (0)	0.0
ダウン症候群		1 (0)		1 (0)									2 (0)	11.1
その他の染色体異常													0 (0)	0.0
運動発達遅滞			10 (0)	2 (0)									12 (0)	66.7
知的障害に伴う 運動発達遅滞													0 (0)	0.0
神経・筋疾患			1 (1)										1 (1)	5.6
二分脊椎													0 (0)	0.0
発達障害								1 (0)					1 (0)	5.6
骨・関節疾患													0 (0)	0.0
その他													0 (0)	0.0
計	0 (0)	1 (0)	13 (2)	3 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	18 (2)	100

注) (1) 年齢は、訓練開始時の満年齢である。

(2) 診断名は2024年3月末時点での診断名である。

(3) 再度、処遇を受けた児童も含む。

(4) () 内は、訓練開始時の移動能力が移動不可～寝返りの段階にある児童数である。

表3-18 PT診断別状況（新規+継続）

（2023年度、単位：人）

主診断名	就学前児童							小学生		中学生	高校生	計	%
	0歳 2023年度 生まれ	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年				
脳性麻痺			2 (0)	2 (0)	3 (1)	1 (0)	1 (0)	3 (0)	9 (3)	6 (4)	2 (1)	29 (9)	27.4
その他の運動障害 (症候群含む)			1 (0)	4 (1)		3 (0)	3 (1)	5 (1)	2 (0)			18 (3)	17.0
後天性要因による 運動障害								1 (0)				1 (0)	0.9
ダウン症候群		2 (0)	5 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (0)		2 (0)		1 (0)		14 (0)	13.2
その他の染色体異常				1 (1)	3 (1)	2 (1)			2 (1)	2 (2)		10 (6)	9.4
運動発達遅滞		7 (0)	15 (0)	3 (1)	1 (0)			1 (1)				27 (2)	25.5
知的障害に伴う 運動発達遅滞			1 (0)	3 (0)								4 (0)	3.8
神経・筋疾患		1 (1)										1 (1)	0.9
二分脊椎												0 (0)	0.0
発達障害							1 (0)					1 (0)	0.9
骨・関節疾患												0 (0)	0.0
その他							1 (0)					1 (0)	0.9
計	0 (0)	10 (1)	24 (0)	15 (3)	8 (2)	7 (1)	6 (1)	12 (2)	13 (4)	9 (6)	2 (1)	106 (21)	100

注) (1) 2023年度内に管理をした全ての児童の状況を示す（終了児を含む）。

(2) 年齢は、学年齢である。「0歳、2023年度生まれ」は、2023年4月2日以降生まれの児童である。

(3) 診断名は、2024年3月末時点（終了児はその時点）の診断名である。

(4) ()内は、2024年3月末時点（終了児はその時点）で移動不可～寝返りの段階にある児童数である。

表3-19 PT終了等の状況

（2023年度、単位：人）

区分	目標達成	評価のみ	転居・転院	高校卒業	中絶	就学	死亡	計
人数	17	1	9	1	2	0	1	31

表3-20 PT月別状況

(2023年度、単位：人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
実人数	76	70	83	69	68	70	64	69	67	70	63	61		69.2
延人数	137	134	135	136	129	123	125	133	113	115	117	107	1,504	125.3
月管理数	87	87	94	88	90	87	86	85	86	83	82	80		

注) (1) 実施児1人あたりの訓練頻度(延人数÷実人数)は、月平均1.8回であった。

(2) 担当児全員の訓練頻度(延人数÷月管理数)は月平均1.4回であった。

(3) 実際の訓練回数は、週1回～月1回程度である。

(2) 作業療法 (OT)

- ・個別訓練は医師の指導監督の下、作業療法士2名(常勤1名、非常勤1名)が施設基準の障害児(者)リハビリテーションに基づいて行った。
- ・脳性麻痺児やその他の疾患による肢体不自由児に対しては機能訓練を実施し、発達障害等の児に対しては評価後、主に感覚統合療法を用い、治療・指導などを行った。
- ・初回評価は作業療法士2名で行った。観察評価に加え目的に応じ臨床観察、視知覚発達検査、日本版ミラー幼児発達スクリーニング検査(JMAP)、日本感覚インベントリー(JSI-R)を行った。
- ・処方は年間84名出され、新規児童は待機児も含め79名であった。待機期間を短縮するため10回クール制を継続した。最大3か月待ちの状態があり、平均すると2か月待ちであった。3月末時点で未開始の児童は22名であった。
- ・新規児童は、ASDの児童が全体の36.7%を占めた。年齢は、小学生低学年1名1.3%、年長児26名32.9%、年中児32名40.5%、年少児15名19.0%、2歳児4名5.1%、1歳児1名1.3%であった。
- ・1月に開始になった5歳児が2名いた。必要な訓練回数を確保できるよう優先的に予約を入れた。1名は必要な訓練回数の確保が難しく就学に向けた準備としては不十分であったが、生活上の困難さの改善はした。通園児1名は、訓練効果が出るまでに時間を要するため、就学で終了とはせず継続となった。
- ・整形外科からの処方は5名であった。
- ・10回クール制での要点を絞った目標設定で目標を達成し終了できた児もいたが、状況に合わせて訓練内容、訓練回数を変更し対応する事が必要な児もいた。
- ・訓練対象児155名のうち、通園児は18名であった(そよ風15名、あつた3名)。
- ・巡回療育指導を発達相談員とともに行った。

表3-21 OT診断別状況(新規)

(2023年度、単位:人)

主診断名	就学前児童						小学生		中学生	高校生	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年				
脳性麻痺				1			1				2	2.5
後天性要因による運動障害											0	0.0
二分脊椎											0	0.0
神経筋疾患・分娩麻痺											0	0.0
ダウン症候群											0	0.0
その他の運動障害(症候群を含む)		1			1	1		1			4	5.1
知的障害	不器用を伴う				4	1					5	6.3
	多動を伴う										0	0.0
境界域				1	3	4					8	10.1
A D H D				4	6	4	2				16	20.3
L D											0	0.0
A S D	知的障害を伴う			1	3	5					9	11.4
	知的障害を伴わない				10	10					20	25.3
協調運動障害				1	7	5	2				15	19.0
その他											0	0.0
計	0	1	0	8	34	30	5	1	0	0	79	100

注) (1) 年齢は、訓練開始時の満年齢である。

(2) ASD+境界域は、ASD(知的障害を伴わない)を含む。

表3-22 OT診断別状況(新規+継続)

(2023年度、単位:人)

主診断名	就学前児童						小学生		中学生	高校生	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年				
脳性麻痺				2	2	1	3	1	2		11	7.2
後天性要因による運動障害							1				1	0.7
二分脊椎											0	0.0
神経筋疾患・分娩麻痺											0	0.0
ダウン症候群						2					2	1.3
その他の運動障害(症候群を含む)		1		1	1	1	1	1			6	3.9
知的障害	不器用を伴う			2	4	5					11	7.2
	多動を伴う										0	0.0
境界域			1	1	2	2					6	3.9
A D H D			1	4	7	9					21	13.7
L D											0	0.0
ASD	知的障害を伴う			1	2	3	16	1			23	15.0
	知的障害を伴わない				2	14	27				43	28.1
協調運動障害			1	3	6	16					26	17.0
その他						3					3	2.0
計	0	1	4	17	39	82	6	2	2	0	153	100

- 注) (1) 2023年度内に管理した全ての児童の状況を示す(終了児を含む)。
(2) 年齢は、学年齢である。
(3) ASD+境界域は、ASD(知的障害を伴わない)を含む。
(4) 境界域の児童は不器用などをあわせもっていた。

表3-23 OT終了等の状況

(2023年度、単位:人)

区分	目標達成	評価のみ	クール終了	転居・転院	就学	高校卒業	中絶	その他	計
人数	55	2	5	2	29	0	3	3	99

表3-24 OT月別状況

(2023年度、単位:人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
実人数	74	71	79	81	80	79	92	80	83	83	84	77		80.3
延人数	110	112	120	117	115	114	136	111	126	110	120	108	1,399	116.6
月管理数	83	90	95	98	101	103	110	112	112	113	109	185		

- 注) (1) 実施児1人あたりの訓練頻度(延人数÷実人数)は、月平均1.5回であった。
(2) 担当児全員の訓練頻度(延人数÷月管理数)は、月平均1.1回であった。

(3) 言語聴覚療法 (ST)

- ・個別訓練は医師の指導監督の下、言語聴覚士 3 名が施設基準の障害児 (者) リハビリテーションに基づいて行った。
- ・対象は、主に言語・コミュニケーションに何らかの困難をもつ児童である。
- ・評価には、国リハ式< S-S 法> 言語発達遅滞検査、質問-応答関係検査、新版構音検査、ITPA (イリノイ式言語学習能力診断検査)、PVT-R (絵画語い発達検査)、LC スケール、随意運動検査等を用いた。
- ・処方は年間 116 名 (2022 年度 106 名) 出され、新規児童は待機児も含め 121 名 (2022 年度 85 名) であった。児童総数は 159 名 (2022 年度 147 名) であった。
- ・新規児童は、年長児が 65 名 53.7%、年中児が 46 名 38.0% であった。
- ・新規診断別状況では ASD の児童が 48.8% であった。構音障害に分類した児童のうち、ASD をあわせもつ児童が 3 名、ADHD をあわせもつ児童が 2 名であった。
- ・訓練開始の待機状況は、年度開始時点で前年度からの待機が 36 名、3 月末時点で未開始の児童は 36 名であった。待ち期間は最大 4 か月であった。
- ・10 回クール制を継続した。児の状況に応じて訓練頻度や回数を調整した。
- ・訓練対象児 159 名のうち、通園児は 11 名であった (そよ風 10 名、あつた 1 名)。
- ・言語聴覚士 2 名は、週 1 回耳鼻咽喉科の各種聴力検査 (BOA・COR・peep-show・プレイオージオ・純音聴力検査・ティンパノメトリ・DPOAE) を担当した。
- ・巡回療育指導を発達相談員とともに行った。
- ・子育て支援センターで講座を行った。
- ・言語聴覚士 1 名は、就園前グループ (くま、らいおん) と並行グループ (前半期: ばす、ひこつき、しんかんせん、後半期: ばす、へりこぶた一、しんかんせん、通年: きしゃ) を担当した。

表3-25 ST診断別状況(新規)

(2023年度、単位:人)

主診断名	就学前児童						小学生		中学生	高校生	計	%	
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年					高学年
脳性麻痺											0	0.0	
知的障害					4	6	1				11	9.1	
境界域					1	4	2				7	5.8	
ASD	知的障害を伴う			1	2	16	2				21	17.4	
	知的障害を伴わない			1	5	25	7				38	31.4	
LD											0	0.0	
ADHD											0	0.0	
言語発達遅滞					5	7	3				15	12.4	
ダウン症候群											0	0.0	
構音障害					8	11	4				23	19.0	
吃音					1	2					3	2.5	
難聴											0	0.0	
場面緘黙						2					2	1.7	
その他			1								1	0.8	
計	0	0	1	2	26	73	19	0	0	0	0	121	100

注) (1) 年齢は、訓練開始時の満年齢である。

(2) ASD +境界域は、ASD(知的障害を伴わない)に含む。(6名)

表3-26 ST診断別状況(新規+継続)

(2023年度、単位:人)

主診断名	就学前児童						小学生		中学生	高校生	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年				
脳性麻痺											0	0.0
知的障害					8	5					13	8.2
境界域					3	6					9	5.7
ASD	知的障害を伴う		1	3	5	18					27	17.0
	知的障害を伴わない			2	9	33					44	27.7
LD											0	0.0
ADHD						5					5	3.1
言語発達遅滞					8	10					18	11.3
ダウン症候群											0	0.0
構音障害				3	10	21	1				35	22.0
吃音					3	1					4	2.5
難聴											0	0.0
場面緘黙					2						2	1.3
その他			1			1					2	1.3
計	0	0	2	8	48	100	1	0	0	0	159	100

注) (1) 2023年度内に管理した全ての児童の状況を示す(終了児を含む)。

(2) 年齢は、学年齢である。

(3) ASD+境界域は、ASD(知的障害を伴わない)に含む。(10名)

(4) 構音障害・吃音に分類した児童の内、7.7%はASD、7.7%はADHD、2.6%は言語発達遅滞の診断を受けた児童である。

表3-27 ST終了等の状況

(2023年度、単位:人)

区分	目標達成	評価のみ	クール終了	転居・転院	高校卒業	中断	就学	その他	計
人数	31	16	5	2	0	3	56	0	113

表3-28 ST月別状況

(2023年度、単位:人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
実人数	41	53	60	71	72	79	81	84	101	93	95	82		76.0
延人数	58	80	98	102	104	106	120	117	142	125	140	130	1,322	110.2
月管理数	49	59	69	79	88	94	101	109	117	117	116	88		

注) (1) 実施児1人あたりの訓練頻度(延人数÷実人数)は、月平均1.4回であった。

(2) 担当児全員の訓練頻度(延人数÷月管理数)は、月平均1.2回であった。

(4) 生活支援

① 摂食・嚥下機能訓練

- ・運動障害に起因する摂食・嚥下障害のある子どもや、運動発達の遅れ等に伴う食事機能の未熟さをもつ子ども、偏食によって離乳食が進まない子ども、およびその保護者を対象に、リハビリスタッフ5名(PT・OT・ST)と栄養士1名の計6名で評価・指導を行った。
- ・評価・指導は、③通園・療育グループでの給食、⑥食事相談会の場において行った。

②通園・療育グループでの給食

- ・通園においては、リハビリスタッフ7名(内1名は5月まで)が各クラスの給食に入り、評価・指導を行った。今年度は通園児57名中17名が摂食・嚥下機能訓練の対象であった。あいあい組は7名が対象であった。
- ・療育グループにおいては、ひよこさぎグループにリハビリスタッフが入り、全体の様子をみながら必要児にはポイント指導・助言を行った。さらに細かな評価・指導が必要な児童に対しては、食事相談会につないだ。
- ・11月に通園児の食事の様子について目標とアプローチを一覧にしてクラスと共有した。

表3-29 給食指導対象児の年齢別状況

(2023年度、単位:人)

区分	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計
通園			1	7	7	2	17
あいあい組			7				7
計	0	0	8	7	7	2	24

注) (1) 年齢は、学年齢である。

(2) スクリーニング的な評価を行った児童は含まない。

表3-30 給食指導の月別状況

(2023年度、単位:件)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
通園	17	17	14	17	10	14	18	13	11	15	15	12	173
あいあい組		1	2	3	2	3	3	2	2	2	2	1	23

注) (1) 個人への給食指導を基本とし、クラス全体に対する評価・指導も1件として数えた。

(2) 4・5月は、通園及びあいあい組の全体的評価を中心に実施した。

⑥摂食訓練会

- ・月2回、年間20回の食事相談会を設定した。スタッフの体制上、各回の対象は2名までとした。
- ・0～3歳児の児童10名に対し、個別に評価・指導を行った。訓練回数は年1～3回である。
- ・新規児童は7名であった。
- ・2021年度から脳性麻痺の児童が0名となっているが、これは他機関で摂食指導を受けている児童が増えていることが影響していると考えられる。そのため頻回な指導を必要とする摂食・嚥下障害のある児童が少なく、実施数は減少傾向である。また、個別訓練の中で食事状況のフォローも行っている。
- ・食事相談会に通うことが難しい2名に対しては個別訓練の枠で、評価・指導を実施した。

表3-31 食事相談会実施児の診断別状況

(2023年度、単位：人)

区 分	就 学 前 児 童						学 齢	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳			
脳 性 麻 痺								0	0
後天性要因による運動障害								0	0
ダ ウ ン 症 候 群	1	1						2	20.0
その他の染色体異常		1						1	10.0
その他の運動障害			1	1				2	20.0
知的障害に伴う運動発達遅滞								0	0
発 達 障 害								0	0
運 動 発 達 遅 滞		2	2					4	40.0
神 経 ・ 筋 疾 患		1 (1)						1 (1)	10.0
計	1	5 (1)	3	1	0	0	0	10 (1)	100

注) (1) 年齢は学年齢である。

(2) () 内はその児童のうち、DQ 20 以下で未定額の児童数をあげた。

表3-32 食事相談会月別実施状況

(2023年度、単位：人)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実人数		2		1	2	3	1	2	1	2	1	1	16
延人数		3		1	2	3	1	2	1	2	1	1	17

表 3 - 33 個別枠における食事相談会月別実施状況

(2023 年度、単位：人)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実人数		1				1							2
延人数		1				1							2

② 通園療育連携

- ・ PT・OT・ST 各 1 名が、月 1 回、通園部の子どもの評価や職員の関わり方について、各クラスからの相談内容に助言する形で連携を行った。
- ・ PT 1 名・ST 2 名がそれぞれ 1 クラスを担当した。
- ・ 通園を含めた新規職員向けに PT・OT・ST が研修を行った。

③ 学校連携

- ・ 学校生活を支援する目的で港特別支援学校と連携をとった。
- ・ 学校との連携で得た情報は、個別訓練を実施する上でも貴重であった。
- ・ 学校側からのニーズは高かったため、コロナ対策をしながら可能な限り対応した。
- ・ 連携は、④ケース会、⑥個別訓練見学において行った。

④ ケース会

- ・ 6月と10月の2回実施した。
- ・ 対象は、小学部1年生（2名）、中学部3年生（1名）の計3名であった。
- ・ PT・OT・ST が学校へ訪問した。
- ・ 対面でのケース検討を再開し、6月は別室にて、10月は対象児童の教室にて実施した。

⑥ 個別訓練見学

- ・ 夏休みの個別訓練見学は、PT 見学 15 件、OT 見学 2 件実施した。
- ・ 担当教員と児童の生活を踏まえた課題を共有し、自立活動の時間に実施する内容の提案を行った。

(5) 学習会

① 保護者向け学習会

実施日	内 容	対 象	参加人数	担 当
6月9日	食具と口の体操	ひよこグループ	5名	PT
10月13日	ハイハイ期の体の使い方とあそびについて	まめグループ	3名	PT
10月18日	ことばにつながる遊びと生活	くまグループ	8名	ST
1月19日	リフレッシュ講座 腰痛体操	ひよこグループ	12名	PT

②職員向け学習会：通園部を含む新規職員にリハビリ職についての説明を行った。(10/17)

(6) 音楽療法 (MT)

- ・個別音楽療法を、週1回(木曜日)、音楽療法士が実施した。
- ・興味を広げることや、他者を意識し三項関係を築くことを目的に実施した。
- ・対象は、知的障害を伴うASDが56.3%と最も多かった。
- ・新規児童は9名であった。
- ・対象と目的により、保護者も一緒に参加するプログラムを行った。
- ・ST訓練を受けている児童によっては、担当者と共同で実施することもあった。

表3-34 MT診断別状況

(2023年度、単位:人)

主診断名	就学前児童						小学生		中学生	その他	計	%	
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年					
ASD	知的障害を伴う		1		2	3	3					9	56.3
	知的障害を伴わない		1			1						2	12.5
脳性麻痺												0	0
知的障害												0	0
その他		2		1	2							5	31.3
計	0	4	0	3	6	3	0	0	0	0	16	100	

注) (1) 年齢は、学年齢である。

(2) その他はダウン症等、運動障害をもつ児童である。

表3-35 MT月別状況

(2023年度、単位:人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
実人数	7	8	8	8	7	10	9	7	6	8	6	6		7.5
延人数	12	11	17	10	13	14	12	9	7	11	9	9	134	11.2

注) 実施児1人あたりの訓練頻度(延人数÷実人数)は、月平均1.5回であった。

第4 通園事業

1 施設概要

(1) 定 員 57名

(2) 対 象 児 童

0歳から就学前の、障害・発達のおくれを発見された子ども、又はその疑いのある子どもを対象にする。

(3) クラス編成 原則として生活年齢を基準に編成する。

(4) 通園形態 親子通園及び単独通園の2形態とする。

(5) 親子通園の種類

① 新規親子通園

新入園児を対象として、4月は週3登園、5月は週4登園を行う。

② 定例親子通園

全園児を対象として、毎週水曜日に行う

(6) 通園バス

- ・通園のための送迎を車をワゴン車3台とマイクロバス1台運行する。
- ・自家用車がない等により登園が困難な親子に、親子登園期間中、及び水曜親子登園日に通園バスでの送迎を行う。(親子バス)
- ・医療的ケアが必要で、周回送迎車への乗車が困難な親子に、個別送迎を行った。

2 療育内容

(1) 子ども像

子ども像とは「こんな子どもに育ててほしい」という私たち保育者のねがいである。

障害をもっていても、ひとりの人間として、障害をのりこえ、たくましく、ゆたかに成長発達してほしい。「かわいがられる障害者」ではなく「自立(律)した障害者」になってほしいというねがいをもち、以下の子ども像をたてた。

- ・いのちを守り、いのちをつよくなる子ども
- ・ゆたかな要求をもち、意欲的に生活する子ども
- ・どきどきわくわくしながら、あそぶことが大好きな子ども
- ・人の気持ちがわかり、自分の気持ちを伝えられる子ども
- ・人とともに育ちあえる子ども

(2) 療育の視点

社会情勢を見つめて

- ・現代の子育ての状況や社会福祉の動向などから地域の社会の実態をとらえ、子どもの発達を保障できる療育づくりをすすめる。
- ・日本国憲法や子どもの権利条約に学び、子ども一人ひとりの人権を守り、平和の大切さを伝える療育実践をすすめる。

一人ひとりの発達を支援する

- ・一人ひとりの子どもの発達や障害、これまでの育ちをまるごととらえ、発達課題を明らかにしながら、どの子ども集団の中でいきいきとあそぶことができる療育づくりをすすめる。
- ・一人ひとりが自分を大切にされる経験を通して、どんな命も尊く、かけがえのないものであることを、療育を通して伝える。
- ・食を通じて(さまざまな形態を意味する)、健康な身体をつくる。また、食育の視点を大切に、日々の食事を家族と共に豊かにする。
- ・子どもたちが、身近な自然や文化に触れながら生活経験を広げることを大切にする。また保育者がさまざまなあそびの文化を学び、子どもがドキドキワクワクと心動かすあそびづくりを追求する。
- ・大人との安心できる関係のもと、もっとあそびたい、できてうれしいなど、子どもの要求を広げ、人と共感しあえる関係づくりをしていく。
- ・一人ひとりのよさや、いろんなことに挑戦する中で達成感を積み上げ、集団の中で認められ、自己肯定感が育てられる集団づくりをすすめる。

家族とともに

- ・子どもを真ん中にして、家族の思いや願いを共有しながら、家族が元気に子育てに向かえる支援をすすめる。
- ・日々の子育てを担う母親が、子どもの理解を深めながら基本的な子育てを学び、楽しく子育てできるように支援する。
- ・母親同士が思いを出し合い、子育てへの思いや悩みに共感し、互いに育ちあえる母親集団づくりをする。
- ・父親、兄弟の交流を通して、仲間づくりをすすめる。

(3) 療育計画

① クラス編成・登園日

(2023 年年度)

クラス名	人数	年 齢	担任	登園日・登園時間
つばめ組 (進級児クラス)	8	5歳児 8 医療的ケア児1	3	・進級児 月・火・木・金(単独通園) 10:00～15:00 水(親子通園) 10:00～13:00 *登園保障と就労保護者支援の視点から月に1日、水曜日を15時までの通常保育とした。 ・新入児 4月…週3日親子通園 10:00～13:00 5月…週4日親子通園 10:00～13:00 6月…単独・週5日通園へ移行 (進級児と同様) *子どもの状況(集団経験の有無)によって、早めることもあり。
そら組 (進級児クラス)	9	5歳児 6 4歳児 3	3	
にじ組 (進級児クラス)	9	4歳児 9	3	
ちょうちょ組 (進級児・新入児クラス)	9	4歳児 6 3歳児 3	4	
めだか組 (進級児・新入児クラス)	6	3歳児 6 2歳児 2	2	
たんぽぽ組 (新入児クラス)	8	4歳児 5 3歳児 3	3	
つくしんぼ組 (新入児クラス)	8	3歳児 7 2歳児 1	3	

② 日 課

時間	単 独 通 園 日	親 子 通 園 日
9:00	通園バス	
9:45	直接登園の子 登園	登園
10:00	通園バス到着 健康チェック、着替え 水分補給	健康チェック、着替え 水分補給 おはようのつどい あそび・とりくみ
11:00	おはようのつどい あそび・とりくみ	あそび・とりくみ
	給食準備 給食	給食準備 給食
12:00	歯みがき・たんれん・着替え 絵本の読み聞かせ	歯みがき・たんれん
13:00	午睡	さよならのつどい 降園
14:15	着替え 水分補給 さよならのつどい 降園	※生活づくり週間 7/10～8/25 7/10～7/28は、早寝早起きを家庭に投げかけ、登園時間を30分繰り上げ9:30登園、15:00降園にした。 8/7～8/25は、夕方の過ごし方を家庭に投げかけ、おもちゃや絵本の貸し出しを行った。
15:00	通園バス 見守り一時支援(～17:30)	

③ 親子登園日（水曜日）の内容

親子あそび クラス毎で、親子で楽しくあそんだり、親子での経験を広げる。ふれあいあそびや、クッキングや園外保育などを行った。（2～3回/月）

親子プール クラス毎に園内の温水プールに入る。（年間、各クラス2～3回）

母親研修 就学に向けて、教育センターの方を招いての懇談会や、港特別支援学校と南特別支援学校の見学会を実施した。

就園に向けては、公立保育園の園長に来ていただき、保育園の様子や入所手続きについての説明を聞いたり、そよ風から転園された先輩お母さんから、具体的な園の様子を話していただく機会を設けた。

年長児は、サポートブックの学習・作成。新入児は、クラスごとに生活（排泄・生活リズム・給食）の学習を実施。また、各クラスごとに、クラスの実態から必要と思われる学習を行った。

親の会 年間4回の役員会、6回の定例会（オンライン並用）を実施した。また、5月と3月に総会を行った。交流会を2回行い、クラスを超えた交流を図った。

会長を中心とした役員が、親の会の運営についての話し合いを進め、園に対しての要望書の取りまとめを行った。

保護者研修として、障害者施設（ゆたか福祉会・社会館ねーぶる）の見学を行った。

係り活動は、会長を4歳児から選出し、各係のリーダーを4歳児、サブリーダーを5歳児の保護者が担い、行事や、実現させる会の活動を作り出した。

④ クラスを越えた保育

年長保育…14名の年長児に、4月から1年間通して年長保育を行った。野菜の栽培や単独宿泊をとりくんだ。保護者は親子宿泊、サポートブック作成のとりくみを行った。

⑤ 給食の状況

形 態	人 員
普通食	40
完了～移行食	5
側方への咀嚼～歯茎たべ	2
舌つぶし～側方への保持	2
ペースト～マッシュ	3
経管栄養（鼻注・胃ろう・他）	2
アレルギー	4
禁忌食材への対応	0

<調理の工夫>

手づかみをする／すくう／さす／しっかり噛む…をするために

- ・一つ一つの食材の目標をはっきりさせることにより、手づかみ、すくう、さすをしやすくする。
- ・食材を大きめに切り、噛み切る、噛みちぎる、噛むなどをし、一口量のコントロールをしやすくする。
- ・移行食という考え方ではなく、乳児食として普通食との間を埋める調理法を取り入れる。

食べやすくするために

- ・ゼリー食（ソフト食）にする。
- ・トロミを使い飲み込みやすくする。（水分補給・餡の利用）
- ・子どもの状況に合わせ、固さや調理法、食材を変える。
- ・手づかみしやすい大きさや固さにする。
- ・刺しやすい固さ、すくいやすい大きさにする。
- ・水分、栄養を摂るために、体調に合わせ調理形態の変更及び、高栄養剤の注入等、臨機応変な対応をし、一定量の確保をする。

<食器の工夫>

ノンスリップマット、吸盤、食器の重さ、深さなど子どもが使いやすいものに変える。

スプーン、フォークのグリップや柄、角度を子どもが使いやすいものに変える。

コップの高さ、持ち手、ボトル、チューブ、ストローなど子どもに応じて水分補給のしやすいものに変える。

『自分で』『目的をはっきりさせる』など、子どもが意欲的に向かいやすいように（取り皿／深さ／重さ／形など）工夫する。

<給食指導の状況>

子ども—通園の給食に栄養士・訓練士（PT2名、OT1名、ST1名）が入り、保育者と共に給食指導をし、それぞれの子どもの摂食嚥下、道具操作、姿勢（机・椅子）など状況を捉え合い、必要な関わりや方向性の検討をした。

食に偏りのある子の捉え、日課、カリキュラムの検討を行い、給食の内容や関わり方、クッキングの中味を具体的に考え、実施した。季節や日々の生活の中で食材を見る、触れる・味わうなど『五感』に働きかけることを意識し、子どもたちにとっての経験、食への興味を広げる取り組みを考えてきた。

親—おたより（月1回）、クラス研修、個別懇談、食事調査を必要に応じて行い、啓蒙した。研修や長時間保育を通し、水分、食事を考えるきっかけにした。日々の生活を通し、「共食」の大切さや、「食文化」「行事」を意識し、経験を積み重ねてきた。後半期クラス懇談会では、園の様子を保護者に写真を通して伝え、日々の生活やあそびとつなげ、子どもたちの興味や関心の種まきをしていくことの大切さを保護者に伝えた。クラスの状況に応じ、クッキングを計画的に取り組んできた。また、家

庭での悩み（食事づくりや関わりなど）から、簡単にできる工夫について啓蒙した。各クラスより作り方が知りたい、気になるメニューなどあがり、作り方をその都度伝えたりした。

<給食委員会>

月1回、各クラスの給食委員と栄養士、調理師で行い、各クラスの子どもの状況をとらえあい日々の療育につなげてきた。

食べることを通し、季節を感じられるメニュー、家庭の食生活をと捉えたところで、野菜や魚の摂取量が少ない実態も踏まえ、子どもたちの「食べてみたい」と思える気持ちを豊かにしていくことを中心に取り組んだ。メニューに使われる食材、行事食の由来等をともに学び、干し芋づくり、クリスマスクッキーのガーラント、餅つきや鏡餅づくりなど、職員も食の経験を広げてきた。

各クラスの子どもたちの状況により、水分補給の内容、食事形態など、園生活の日課の整理を含め子どもたちにとってよりよい生活をクラスと給食室で共に考え、療育として食べることをどう考え、実践していくかを職員集団で積み上げてきた。

年度末にクラスごとの人気メニュー、子どもたちの様子をとおたよりにした。年に2回レシピ集を発行した。

⑥ 年間行事

月	日	内 容	内 容
4	5 (水)	進 級 式 (はじまりのつどい)	そよ風進級の親子でつどい。
	6 (木)	入 園 式	そよ風入園のつどい。新入児を2つにわけて式を行う。
5	19 (金)	親 子 遠 足	東山動物園(名養連・名障連招待行事)は雨天のため中止。園内での親子あそびに切り替えた。
6	3 (土)	潮 干 狩 り	竹島海岸でおこなった。現地集合が難しい家庭については、親子バスを運行した。社会館4通園合同行事。
7	10 (火) ~ 28 (金)	生 活 づ くり 週 間	登園時間を9時30分にし、家庭とともに早寝早起きについて考える。
	14 (金) ~ 15 (土)	年 長 親 子 宿 泊	14組の年長児が親子でそよ風に宿泊する。24時間の生活をとらえるとともに、魚つかみやお母さんの交流会などとりくむ。
	25 (火) ~ 27 (木)	海 水 浴	3日間に分散し(1日目:そら、にじ、2日目:たんぼぼ、つくしんぼ、3日目:つばめ、ちょうちょ、めだか)、親子で野間海水浴場にて海でのあそび経験を広げる。父親や兄弟も参加し、海あそびやすいかわりを楽しむ。
8	7 (月) ~ 25 (金)	生 活 づ くり 習 慣	登園時間を10時に戻し、夕方の時間を家庭とともに考え合う期間。おもちゃや絵本の貸し出しを行う。
	26 (土)	社 会 館 夏 ま つ り	各クラスに集合し、集いをし、源兵衛公園に移動。親子で出店を楽しんでもらったり、全員で「スマイル音頭」を踊る。
9	26 (火)	年 長 行 事	名フィルコンサートを年長親子のみ参加。親子で演奏を楽しむ。
10	4 (水)	みんなのあそぼう会 (4 クラス)	前半期療育まとめの行事。進級児を含む4クラスが行う。からだをうごかす楽しさを広げることがをねらいに、園庭や屋上遊戯室を使って、身体をいっぱい使ったあそびを展開する。
	5 (木)	みんなのあそぼう会 (3 クラス)	前半期療育まとめの行事。新入児3クラスが行う。安心できる先生や友だちの中で、自分の気持ちを表現してあそぶことを大切に、新入児のクラスはクラスの保護者のみ子どもたちのあそびを参観する。
	14 (土)	家 族 う ん ど う 会	全クラスでの実施に戻し、千鳥小学校の体育館で行う。子どもたちだけでなく、保護者やその家族が楽しめるように、競技を組み、親の会と協力して準備をすすめ、家族そろって楽しんだ。
	19 (木)	年 長 行 事	年長児を含む2クラスの親子が、「ハッピードリームサーカス」を親子で楽しむ。
11	23 (木・祝)	社 会 館 バ ザ ー	久しぶりの全面实施。保護者会、職員ともに模擬店、日用品の販売をおこなった。
	30 (木) ~ 12/1 (金)	年 長 単 独 宿 泊	単独でそよ風に宿泊する。日中は、通園バスでリニア鉄道館に出掛け、夜は光あそびを楽しむ。
12	21 (木)	ク リ ス マ ス 会	南文化小劇場のホールを借り、全クラスで行った。「BIRTHさん」の演奏を楽しんだり、サンタクロース(職員)と一緒に風船で遊び、帰りに子どもたちにプレゼントを渡した。
2	10 (土・祝) 11 (日)	がんばったお祝い会	1年間の療育のまとめの行事。2日間(1日目:あいあい、めだか、たんぼぼ、つくしんぼ、2日目:つばめ、そら、にじ、ちょうちょ)取り組んだ。1日目は、保護者が、お互いのクラスを見合ったり、2日目は、全クラスの保護者が全て参観した。
3	19 (火)	おわかれのつどい	園児のみで行う年長児をお祝いするつどい。全園児が遊戯室につどい、年長児をお祝した。
	20 (水・祝)	卒 園 式 (親 の 会 お 別 れ 会)	就学児14名の卒園を祝う。4歳児親子には通園代表として参加してもらい行う。卒園式後に遊戯室で親の会のお別れ会を行った。園庭での送り出しは、全園児に呼びかけをした。
	25 (月)	そ よ 風 の つ ど い	2023年度療育終わりのつどい。転園児への保育証書授与式と親子あそびを行った。

⑦ 相談・診療との関わり

- ・年度初めに、相談診療部、通園部の合同主任会を実施し、診療連携の内容確認を行った。
- ・年に2回、リハ連携会議を行い、半期の振り返りを行い、半期の計画や具体化や次年度の方針の確認を行った。
- ・新規職員～3年目を対象に、研修を行った。(通園、リハについて)
- ・入園前健診(3月)、在園児健診(4～5月、11月)を実施した。また、外部歯科による歯科検診(6月)を実施した。
- ・重心児や新入児を初めとした丁寧な健康管理が必要な児を対象に、月1回から2か月に1回の頻度で登園前の定期診察を実施した。
- ・医療的ケアが常時必要な児の単独での療育を保障するためにクラス担任で健康状況を丁寧にとらえ、看護師と情報を共有して単独移行を進めた。
- ・医師、保健師、看護師、通園職員で月1回健康会議を実施した。
- ・年に2回、クラス巡回と位置付けて、心理士、CWが通園クラスの生活やあそびの様子を観察し、助言した。年に1回発達相談を実施する際に、心理士との情報共有を発達相談の前後で情報交換を行った。
- ・リハ連携では、対象のお子さんクラスにリハスタッフ(PT、ST、OT)が給食時間に週1～2日入り、摂食指導や道具操作、姿勢の調節を行った。また通年で質問受付制を実施し、各クラスから意見をもらいたい子どものケースを質問用紙に記入した上で、リハスタッフ(PT、ST、OT)が生活やあそびの場面の観察等を行い助言した。
- ・後半期、3クラスを対象に、クラス担当制を実施した。午前中の通園の生活場面にリハスタッフ(PT、OT、ST)が入り、子どもの状況をとらえあうとともに、療育検討を行った。

3 家族支援

親子療育	毎週水曜日(親子あそび、親子プール、園外保育、親の会、研修会) 毎月1回を15時までの単独保育日とした。 新入児親子療育(4～5月 2・3・4歳児) 親子行事(2023年度実施行事は前述) 誕生会 個別療育 新入児(4月)
クラス懇談会	前半期クラス懇談会:進級クラス(5月) ※新入児クラスは、保育説明会(5月) 後半期クラス懇談会 保護者給食(10月)
懇談等	個人懇談(各家庭年2回 5～6月、11月に実施) 家庭訪問(新入児は4月中旬、進級児は5月)
全体研修	
クラス研修	<ul style="list-style-type: none"> ・就園懇談会 (宝保育園園長、就園児親) ・就学懇談会 (教育センター職員、就学児親) ・サポートブック作成会 (担任) ・排泄について (担任) ・生活リズムについて (担任) ・着脱について (担任) ・食えることと感覚について (栄養士)

4 見守り一時支援

市内の各児童発達支援センターにて15時以降の療育を、希望者に対して実施している。そよ風通園部では、定員最大10名、最長17時30分まで受け入れを実施した。1年を通して保護者の就労が減り、利用数が減少傾向にある。

月別利用実績

月	開所日	利用者人数	述べ利用者数	日平均
4月	10	6	17	1.7
5月	13	9	22	1.7
6月	18	12	52	2.9
7月	16	12	44	2.8
8月	10	10	28	2.8
9月	16	17	53	3.3
10月	17	17	59	3.5
11月	15	14	61	4.1
12月	12	9	42	3.5
1月	14	14	49	3.5
2月	14	17	73	5.2
3月	13	14	67	5.2
合計	168	151	567	3.4

(登録者数 34名)

注) 4-5月は進級児のみ対象、新入児は6月より対象とした。

5 2023年度まとめ

(1) 療育づくり

- ・今年度は新入の2歳児3名、3歳児15名、4歳児6名を含む57名でスタートした。4歳児6名は新入児ではあるが、4歳児としての育ちや集団経験の姿から年齢の育ちを常に意識しながら療育をすすめた。また、数年ぶりに重心・肢体不自由児と知的障害の歩行児の混合クラスができた。
- ・新型コロナウイルス感染症が2023年5月に感染症分類第5類になり、そよ風として、発熱時の登園判断や対応を整理した。解熱後24時間の自宅安静などをお願いしながらではあるが、昨年までの濃厚接触者の特定やそこへの対応をしないことに、初めは職員も保護者も不安感があり、大事をとることも多くあったが、徐々に緊張感は緩まってきた。
- ・行事では、様々な制限を見直しながら療育をすすめた1年であった。全クラスでの誕生会、全クラス参加の家族うんどうかい、4歳児親子参加の卒園式など、これまでそよ風が大切にしてきた保護者のつながりや家族同士の交流などを再開した。
- ・4歳児にじ組の実践は、1年を通して子どもたちの気持ちに丁寧に寄り添い、個々のペースを大切にしながら、「やってみよう」、「たのしいよ」と子どもたちに元気に向き合う保育者の姿があった。昆虫や生き物に興味を向ける子どもたちの姿を周りの子へ広げて、日々魅力的なあそびを展開し、また本物の体験を大切に積む中で、子ども同士が友だちへの関心を高め、一緒にあそび、活動する楽しさにつながった。にじ組の保育は職員集団で学び合いたい実践となった。
- ・年度途中に4名の退園があった。10月の2名の退園は集団療育の意味と合わせて、職員配置の在り方や子どもにとっての環境について考える機会となった。

(2) 家族支援

- ・新入児クラスでは、子どもを真ん中に「子どもの良いところ探し」を親子登園の振り返りの時間に言葉にしてきた。その中で、否定的な言葉の多かった保護者が「子どもの良さや変化に気づく」声かけに変わってきた。
- ・一年のまとめの行事「がんばったおいわい会」の中では、子どもたちは保護者を意識しながらもびのびとあそび、保護者はクラスの子どもたちをあたたく見守る姿があり、親子登園を通して、子どもの気持ちに気が付いたり、成長を言葉にして、喜び合える保護者集団になってきたと感じた。
- ・外国籍や不安の強い保護者、きょうだい家族全体の支援を必要とする家庭など、さまざまな家族支援が求められ、職員は保護者との関係を築きながら、個別的な支援をすすめた。
- ・親の会活動は、コロナ禍前に近い活動に戻して行った。保護者研修では大人の施設見学をした。将来のことを考える機会になったと共に、障害者の制度を知る機会にもなった。2回の交流会や係の活動を通して顔の見える関係になり、就学や転園の話題など、縦横のつながりも広がった。
- ・家族行事として、潮干狩り、夏祭り、家族運動会を取り組んだ。参加者からは、家族だけでは経験できない体験に喜ばれたり、子どもの新しい一面を発見する機会になったりと、家族そろって行事に向かい楽しめる良さがあった。4年ぶりに行った全クラスでの家族運動会は、父母、きょうだい、祖父母も含めて協議を行い、総勢211名で行うことが出来た。

(3) 保育者集団づくり

- ・おいわい会を終えて、1～4年目の若い職員が、とても元気に楽しそうに保育している姿が印象的だったという感想をもらった。先輩職員の支えがあったのは間違いなく、リーダーを担う若い職員が、周りを見て声をかける姿に、主任や管理職も心強く感じている。
- ・個人面談の中で働き方へのいろいろな思いが出され、ワークライフバランスを求めているのは子育て世代だけではないことが明らかになった。時間内に精一杯のことをやって、メリハリをつけて働きたい。一方で行事は大変だけど大切と話す職員が多い。そういった意見を聞き、後半期は、次年度の行事計画を職員の働き方と合わせて検討し、行事を見直した。
- ・菜の花保育園、みどり菜の花保育園より、情勢や実態、子ども像を通し、保育園で大切にしていること、父母提携、乳児幼児の生活年齢を通し各年齢の特徴や育ちなどから、保育の環境や保育づくりの視点を学んだ。生活年齢を大切にした生活やあそびづくり、行事の在り方などを見直すきっかけとなった。

6 児童の状況

表4-1 障害種別状況

2024年3月末現在

障害種別	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
知的障害		1	5	3	3	12
自閉症				1		1
自閉症+知的障害		1	7	13	8	29
知的障害+肢体不自由			3	2		5
肢体不自由						0
重症心身障害		1	1	1	3	6
視覚障害			1			1
その他保健						0
計	0	3	17	20	14	54

表4-2 障害程度別状況

障害程度	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
最重度		1	2	1	3	7
重度			3	3	2	8
中度		2	3	11	8	24
軽度			7	5	1	13
非該当			2			2
計	0	3	17	20	14	54

注) (1) 身障、愛護両方所持の場合、程度区分は重いほうを基準として分離した。

(2) 未所持の児童に対しては発達指数により障害区分を分類した。

表4-3 手帳所持状況 愛護手帳

愛護手帳	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
1度		1	1	1	2	5
2度			1	2	3	6
3度		2	3	12	8	25
4度			10	5	1	16
未所持			2			2
非該当						0
計		3	17	20	14	54

表4-4 身体障害者手帳

身体障害者手帳		1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
I種	1級			1	1	2	4
	2級		1	3	1	1	6
	3級			3		2	5
	4級						0
	5級						0
	6級						0
II種	1級						0
	2級						0
	3級						0
	4級						0
	5級						0
計		0	1	6	2	5	14

表4-5 区別状況

2024年3月現在

区	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
南区		3	2	4	8	17
緑区		1	14	20	6	41
港区						
計	0	4	16	24	14	58

表4-6 通園日数（年度途中終了時含む）

通園日数	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
1日				
2日				
3日				
4日				
5日	4	17	23	14

表4-7 月別児童数

入退園	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
初日在園	57	57	57	57	57	57	57	55	55	55	55	54
月末在園	57	57	57	57	57	57	55	55	55	55	54	54

表4-8 在園期間

在園期間	児童数	平均在園期間
1年未満	1	1年9ヶ月
1年以上2年未満	25	
2年以上3年未満	13	
3年以上4年未満	13	
4年以上5年未満	2	
5年以上6年未満	0	
計	54	

表4-9 卒退園児の進路先と平均在園期間

卒退園	特別支援学校	肢体的 知的	7		在園期間			卒園	退園
			2	5	1年未満	0	0		
退園	支援級		7	7	1年以上2年未満	0	11		
	保育園（公）		3	6	2年以上3年未満	2	0		
	保育園（民）		3		3年以上4年未満	10	0		
	幼稚園（公）		1	2	4年以上5年未満	2	0		
	幼稚園（民）		1		5年以上6年未満	0	0		
	事業所		2	2	計	14	11		
	転居		1	1	平均在園期間	3年0ヶ月	1年4ヶ月		

第5 地域支援・調整事業

2023年7月に地域支援・調整部門が設置され、2021年度7月より先行実施している初診前サポート事業を含めた事業展開となった。新規事業として子育て支援センターでの子育て講座、エリア別研修を実施、拡充事業としては地域型保育事業への巡回療育相談、外部機関からの講演受託。また、地域型保育事業への巡回療育相談にはエリア支援保育所にも同伴を依頼、エリア別研修についてもエリア支援保育所と共催し、地域連携機能を図った。

1 地域連携

表5-1 保健センターとの連携

派遣先	乳幼児発達相談(親子教室)		連絡調整・ケース会議		
	職員	回数	職員	回数	備考
南保健センター	ケースワーカー・保育士	12	ケースワーカー・保育士・保健師・発達相談員	2	事業所説明・連絡会各1回
緑保健センター	未開始		ケースワーカー・保健師	2	事業所説明・連絡会各1回
徳重分室	未開始				

表5-2 保育所等の関係機関との連携(職員向け研修・職員派遣等)

内容	回数	対象					
		保育所	幼稚園	保健C	民生子ども課	事業所	その他
緑区エリア別保育研修交流会	2	2					1
南区エリア別保育研修交流会	1	1					1
緑ブロック子ども応援委員会 事業説明	1						1
名古屋市スクールソーシャルワーカー研修	1						1
緑区主任児童委員研修会	1				1		1
特別支援教育のための専門家チーム	7						7

注) その他には、学校、地域型保育事業所を含む

表5-3 保育所等の関係機関との連携(会議)

	会議名	回数	構成機関				出席職員
			保育所	幼稚園	保健C	民生子ども課	
南区	南区療育連絡会議	2	1	1	1	1	ケースワーカー・保健師・発達相談員・保育士・児童指導員
緑区	緑区療育連絡会議	2	1	1	1	1	ケースワーカー・保健師・発達相談員・保育士・児童指導員

表5-4 いこいの家との連携

	個別相談		保護者向け学習会		連携会議	
	職員	回数	職員	回数	職員	回数
南区 mimi	発達相談員・ケースワーカー	1	ケースワーカー・保育士・発達相談員	6		
緑区 葡萄の木			発達相談員・ケースワーカー	2	ケースワーカー	1

表5-5 自立支援協議会との連携

区	児童部会			相談支援部会		
	出席職員	回数	備考	出席職員	回数	備考
南区	副所長・園長・発達相談員・ケースワーカー	3		相談支援専門員・発達相談員	12	発達相談員は1回のみ
緑区	副部長・保育士	4	障害児支援連絡会	相談支援専門員	12	
	副部長・保育士	3	障害のある子どもを支えるネットワーク			

* 緑区自立支援協議会運営会議に相談診療部長が3回出席した。

表5-6 その他地域関係機関との連携

会議名	回数	出席職員	備考
事業所説明会	25	ケースワーカー	児発、相支事業所・訪看など
子育てネットワーク会議緑区	6	保健師	幹事会4回/年 連絡会2回/年
子育てネットワーク会議南区	6	保健師・ケースワーカー	連絡会5回・南区わくわく子育てまつり
地域型保育事業所巡回へのエリア支援保育所同行訪問	6	ケースワーカー・発達相談員	緑区南区エリア支援保育所主査・保育士
地域子育て支援センター懇談	7	ケースワーカー・発達相談員・保健師	鳴子・宝・ほしざき・めぐみ・神の倉清涼・丘の上・しおみがおか・菜の花・
エリア支援保育所連携懇談	8	ケースワーカー・発達相談員・保健師	鳴子保育園・宝保育園
園長会議における事業説明	2	副部長(ケースワーカー)	
緑区園長会主催研修打ち合わせ	1	ケースワーカー・発達相談員	
南区基幹相談支援センター懇談	1	ケースワーカー・発達相談員・保健師	
こども応援委員会 懇談	1	ケースワーカー・発達相談員・保健師	
その他退院時カンファ、ケース会議	19	ケースワーカー・発達相談員・保育士・看護師・保健師・相談支援専門員など	事業所・訪看・保健センター・医療機関学校など

表5-7 保護者向け勉強会等

内容	回数	職員	備考
子育て支援センター子育て講座	8	PT・ST・発達相談員・ケースワーカー	めぐみ・ほしざき・神の倉清涼・丘の上・鳴子
緑区「発達に気になる親の集い」	4	ケースワーカー	保健センター・基幹・いこいの家共催
南区 親のつどい	3	ケースワーカー	保健センター事業

2 巡回療育指導

保育園、幼稚園、認定こども園、学校、地域の関係機関に通っている児童について各種の相談に応ずるとともに、保育・教育あるいは家庭療育に関する必要な助言及び指導を行った。なお、園からの申し込みにより当センターに受診歴の無い児童についても、助言及び指導を行った。地域支援調整部の開設に伴い、今年度より新たに地域型保育事業所への巡回を行った。

〈対象児〉

- ・児童発達支援センターから保育園・幼稚園・認定こども園へ就園した児童及び小学校に就学した児童
- ・保育園・幼稚園又は学校から相談を受けた児童（未受診児を含む）

表5-8 月別巡回療育指導状況 (2023年度、単位：件、人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
相談診療部	件数		1	8	13	2	13	14	14	8	1	2	76
	人数(既受診児)		1	9	13	3	9	9	9	5		2	60
	人数(未受診児)			8	12	2	17	20	21	12	2		94
通園部	件数		7	4									11
	人数(既受診児)		8	4									12

注) 延べ166人を対象に実施した。

表A 臨時巡回実施件数(再掲) (2023年度、単位：件、人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数		1	1	3		1			2		2		10
保護者希望		1	1	1		1							4
園希望				2					2		2		6

注) 通常巡回とは別に、保護者・園からの申し入れにより必要に応じて巡回を行った。

表B 地域型保育事業所巡回実施件数(再掲) (2023年度、単位：件、人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数					2	2	1	3					8
人数(既受診児)					3	2							5
人数(未受診児)					2	1	2	4					9

表5-9 巡回療育指導施設数

(2023年度、単位：カ所)

区分	南区	緑区	港区	天白区	瑞穂区	市外・県外	計
保育所	10	35		1		1	47
幼稚園	4	8					12
認定こども園	3	8			1		12
学校	2	3	1	1		1	8
その他		2					2
計	19	56	1	2	1	2	81

注) その他は家庭的保育事業所、企業主導型保育園である。

表5-10 巡回療育担当スタッフ

(2022年度、単位：件)

ケースワーカー	発達相談員	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	保育士・児童指導員	保健師・看護師	相談支援専門員	その他	計
38	74	7	10	18	17	22			186

表5-11 児童の状況

(2023年度、単位：人)

障害種別	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	小学校	中学生以上	計
知的障害			1	2	1		3		7
自閉症				4	8	5			17
自閉症+知的障害				6	2		5		13
肢体不自由	2	2							4
肢体不自由+知的障害							1		1
言語発達障害等		1	8	8	6				23
重症心身障害							1	1	2
未決定				1	1	1			3
その他	1				1				2
計	3	3	9	21	19	6	10	1	72

3 訪問療育指導

- ・支援の必要性、目的に応じて訪問する専門職を検討し訪問した。

〈対象児〉

- ・重症心身障害の児童
- ・児童相談所との連携が必要な児童
- ・通所が困難な児童
- ・早期受診の児童
- ・療育上家庭での指導が必要な児童

表5-12 訪問療育指導月別状況

(2023年度、単位：人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実人数	2		3	1			1		1		3	3	14
延べ人数	2		3	1			1		1		4	3	15

表5-13 訪問療育担当スタッフ

(2023年度、単位：件)

ケースワーカー	リハビリ	療育スタッフ(保士)	保健師	看護師	相談支援専門員	発達相談員	計
11	3		4	1	11		30

表5-14 訪問療育児童の状況

(2023年度、単位：人)

障害種別	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
肢体不自由	1						1
肢体不自由+知的障害	1						1
言語発達障害等		1					1
知的障害	1				1		2
その他保健	2						2
自閉症+知的障害		1		1			2
重心			1	2	1		4
未受診	1						1
計	6	2	1	3	2		14

注) 年齢は学年齢である。

4 通園部アフターケア

あそび虫クラブ

2023.5月～2024.3月の間、月に1回土曜日の午前中に、そよ風を卒園して、特別支援学校または、特別支援学級に在籍をしている小学4年生～高校3年生の児童を対象に、子どもたちの興味や余暇を充実させることをねらいに、学年齢に分かれて3つのプログラムを実施した。夏のプログラムも、コロナ禍の制限を緩和しながら、2泊3日小那比キャンプ、重心プログラム、海水浴、兄弟プログラムなど行った。

表5-15 リトルあそび虫(小学校低学年)

実施日	プログラム	参加人数	実施日	プログラム	参加人数
5/11	セントレア	7組	11/30	パンづくり	11組
7/28	小那比デイキャンプ	11組	1/18	たこづくり	5組
9/7	ぶどう狩り	14組	3/15	太鼓	10組

表5－16 小学4年生から高校3年生のサークル活動

	太鼓サークル	クッキングサークル	陶芸サークル	水泳サークル	備 考
登録数	9名	3名	3名	5名	
5月	5	2	2	2	
6月	9	3	3	4	
7月	8	3	3	5	
9月	7	3	3	3	
10月	7	3	3	3	
11月	7	2	3	3	
12月	9	2	3	4	
1月	8	3	3	4	
2月	8	中止	3	2	
3月	6	2	3	4	

長期休暇プログラム

あそび虫クラブは岐阜県郡上市小那比の法人野外活動センターにて2泊3日キャンプを実施した（デイサービス ACT、デイサービスみどりそよ風と合同）。リトルあそび虫は、小那比で親子デイキャンプを行った。重心プログラムは、小那比で親子デイキャンプを行った。また、12月に大府勤労会館で一泊プログラムを実施した。兄弟プログラムは、野外活動センターで1泊2日のキャンプを行った。

5 アフターケア

表5－17

とりくみ	実施日	対 象	数	内 容
アフターをつどい	5/22	・就学児保護者 ・転園し1、2年生 になった保護者 ・転園児保護者	6名	学校の様子や悩みなど交流する。 学校の様子や悩みなど交流する。 園での様子を交流する。
	5/31		2名	
	6/6		2名	
18歳をつどい	1/20	2023年度 18歳を迎える子	12組	卒園児や転園児が参加。当時のビデオやアルバムを見ながら思い出を語ったり、春からの抱負を聞いた。

6 そよ風広場

土曜日の午前中に、そよ風通園、デイサービスACT、デイサービスみどりそよ風の児童発達支援から転園した就学前の親子を対象に、親子で楽しく休日を過ごすこと、経験を広げることを大切に様々なプログラムを取り組んだ。また、保育園や幼稚園での悩みをお母さん同士が話せる場や、親御さん同士のつながりを大切に交流をした。

実施日	プログラム	参加親子	実施日	プログラム	参加親子
5/11	大高緑地公園	6組	11/4	リズム	2組
6/17	おしゃべり広場（保護者交流会 / ボールプール）	7組	12/16	餅つき	5組
7/1	どろんこプール（ジョイフルファーム鶺の池）	7組	1/20	親子でパン作り（講師 那須田宏氏）	8組
9/7	刈谷交通公園	6組	2/17	中止	中止
10/21	芋ほり（ジョイフルファーム鶺の池）	3組	3/2	愛知牧場	2組

7 兄弟プログラム

2023年度通園部に通っている子ども及び、以前に通園部に通っていた子どもの兄弟（小～高校生）を対象とし、2ヶ月に1回集ってプログラムを行った。

実施日	プログラム	参加人数	実施日	プログラム	参加人数
6/17	自己紹介 キャンプ話し合い	14名	10/21	ハロウィンのとりくみ	8名
8/5	キャンプに向けたサマースクール	14名	12/16	クリスマス会	14名
8/11 ～12	おなじキャンプ	14名	2/17	ラウンドワンでボーリング	15名

8 施設・プール開放

- ・同法人内のデイサービスACT、デイサービスみどりそよ風、発達センターあつた、活動センターねーぶる、ちどり児童会にも開放し、年64回のべ539名が利用した。
- ・そよ風の在園児、転園児、そよ風を経過した学齢児親子を対象に、木曜日にプール開放した。年22回のべ45名が利用した。

9 地域啓発・ボランティア育成

- ・夏のサマーボランティアで、高校生を多数うけ入れた。又、大学などの依頼により、大学生のボランティアも2名うけ入れた。

第6 児童デイサービス

1 デイサービスACT

(児童発達支援事業所と放課後デイサービスの多機能型事業所)

(1) あいあい組 (児童発達支援：週2日登園、通園待機児を含む1, 2歳児クラス)

① 利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
乳 幼 児	契約数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	6	-	
	開所日数	6	8	9	8	5	7	8	8	6	6	9	85	
	利用者数	26	26	45	36	21	32	37	42	31	25	40	24	385
	平均利用	4.3	3.2	5	4.5	4.2	4.6	4.6	5.3	5.2	4.2	4.4	4.8	4.5

- ・週2回、(月、木) で実施。
- ・通園待機児7名の親子を対象とした。(2月より通園に1名入園したため終了)
- ・運動発達のゆっくりな子どもたちが「じっくり・たっぷり・繰り返し」あそぶことや五感で本物の経験することを大切に取り組んだ。また、お母さん同士、子育てのことが気軽に話せる仲間づくりを大切にした。

② 児童の状況

表6-1 障害種別状況 (単位:人)

障害種別	人数
知的障害	4
知的障害+自閉症	0
自閉症+知的障害	1
知的障害+肢体不自由	0
肢体不自由+知的障害	1
重症心身障害児	1
肢体不自由児	0
自閉症	0
計	7

表6-2 手帳所持状況 (単位:人)

愛護手帳		身体障害者手帳		
1度	1	I種	1級	0
2度	0		2級	1
3度	5		3級	1
4度	1	II種	1級	0
未所持	0		2級	0
非該当	0		3級	0
計	7		計	2

表6-3 進路状況 (単位:人)

進路先	人数
児童発達支援センター	6
保育園(公立)	1
保育園(民間)	0
幼稚園	0
県外へ転居	0
在宅	0
計	7

(2) デイサービス ACT (放課後等デイサービス)

対 象 名古屋市在住で、小学校、特別支援学級、特別支援学校に通う小学1年生～高校3年生。

実 施 日 月曜日・火曜日・水曜日・木曜日・金曜日… 14:30～17:30
土曜日(月1回)… 9:30～15:30

① 利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
契約数	28	29	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	—
開所日数	18	22	24	21	17	21	22	22	19	20	21	18	245
利用者数	121	148	163	116	94	130	133	133	128	135	120	106	1527
平均利用	6.7	6.7	6.8	5.5	5.5	6.2	6	6	6.7	6.6	5.7	5.9	6.2

② 契約状況

(単位:人)

曜 日	利用者登録数	利 用 者 学 年											
		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
月 曜 (中高生)	5								1	3		1	
火 曜 (小学生)	8		2	1	2	1	2						
水 曜 (小学生)	10				2	2	6						
木 曜 (中高生)	5						1		1	1	1	1	
金 曜 (小学生)	10		1	1	2	3	3						
第2・4土曜 (小中高生)	11					1	4	1	1	1	1	2	

*契約者実数 30名

③ 長期プログラムの等の実施

- ・夏のキャンプは、感染に注意し2泊3日で行った。10名の参加があった。
- ・社会館バザーでは、子どもたちと企画運営の準備をし、ゲームコーナーの出店をした。
- ・学校の長期休業期間は、開所時間を9:30～15:30にした。
- ・7月に家族での小那比デイキャンプを計画する。雨天のため中止となる。
- ・春休みには、中学3年生の卒会記念として、名古屋グランドボウルや東郷町のららぽーとの外出を取り組んだ。また、6年生の卒業記念として、リニア鉄道館の外出を取り組んだ。

2 デイサービスみどりそよ風

(児童発達支援事業所と放課後デイサービスの多機能型事業所)

(1) くじらグループ (児童発達支援：2日登園、2歳児)

① 利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
乳 幼 児	契約数	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4	-
	開所日数	6	8	9	8	4	9	9	8	8	8	8	93
	利用者数	27	29	38	28	18	29	33	24	31	30	30	347
	平均利用	4.5	3.6	4.2	3.5	4.5	3.2	3.6	3	4	3.7	3.7	3.8

- ・週2回、(火・金)で実施。
- ・週2日療育を希望する5名の親子を対象とした。
- ・親子でたっぷりあそぶことを通して、お母さん大好きのがちが育った。自我が育ち、大人からお友だちへの関心が膨らんだ。

② 児童の状況

表6-4 障害種別状況 (単位:人)

障害種別	人数
知的障害	1
知的障害+自閉症	0
自閉症+知的障害	2
知的障害+肢体不自由	0
肢体不自由+知的障害	0
重症心身障害児	0
肢体不自由児	0
自閉症	2
言語発達遅滞	0
計	5

表6-5 手帳所持状況 (単位:人)

愛護手帳		身体障害者手帳		
1度	0	I種	1級	0
2度	0		2級	0
3度	0		3級	0
4度	2	II種	1級	0
未所持	1		2級	0
非該当	2		3級	0
計	5		計	0

表6-6 進路状況 (単位:人)

進路先	人数
児童発達支援センター	3
保育園(公立)	1
保育園(民間)	1
幼稚園	0
県外へ転居	0
在宅	0
合計	5

(2) みどりそよ風（放課後等デイサービス）

対 象 緑区、南区内居住で、小学校、特別支援学級、特別支援学校に通う小学1年生
～中学3年生。

実 施 日 月曜日・火曜日・水曜日・木曜日・金曜日 … 14:30～17:30
土曜日（月1回）… 9:30～15:30

① 利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
契約数	25	26	26	26	26	26	26	26	26	25	25	25	
開所日数	18	22	24	21	18	21	22	21	18	20	20	18	243
利用者数	108	138	151	123	128	122	130	132	106	118	125	99	1480
平均利用	6	6.2	6.2	5.8	7.1	5.8	5.9	6.2	5.8	5.9	6.2	5.5	6.1

② 契約状況

曜 日	利用者 登録数	利 用 者 学 年								
		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
月 曜	8			1	4	1	2			
火 曜	3				2	1				
水 曜	10			3	4	1	2			
木 曜	10			3	3	1	1	1	1	
金 曜	4	1			1		1		1	
土曜(月1回)	8				4	1	2	1		

③ 長期プログラムの等の実施

- ・夏のキャンプは野外活動センターにて、新型コロナウイルス完成症拡大のため中止した。
- ・春休みには、小学6年生4名の卒業記念として、外出プログラム（碧南海浜水族館）を取り組んだ。
- ・学校の長期休業期間は、開所時間を9：30～15：30にした。

第7 障害児相談支援事業所

障害児相談支援事業所そよ風

- ・相談支援専門員3名（専従1名、兼務2名）で基本相談、計画作成、モニタリング等を実施してきた。
- ・管理している対象者は0歳～11歳児（小学6年生）と年齢層の幅が広い。一定数9歳児（小学3年生）以降の計画相談を受けているが地域の相談支援事業所移行もすすめている。
- ・基本相談、支援実績等減少。対応が頻回必要な利用者の減少と新規計画数の減少に伴うことと推察している。対応が頻回の利用者のケース会議、サービス担当者会議の数は増えている。

表7-1 管理数

（2023年度、単位：人）

居住区	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	6歳児	7歳児	8歳児	9歳児	10歳児	11歳児	合計
南区	1	2	7	7	14	11	5	1	2	2			52
緑区		12	29	33	27	16	13	8	4	1	1	1	145
港区		1			1	1	1		1				5
計	1	15	36	40	42	28	19	9	7	3	1	1	202

表7-2 支援実績

（2023年度、単位：件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
計画作成	9	7	16	6	11	9	2	6	26	27	22	10	157
本計画作成	90	15	22	17	13	7	17	15	5	11	10	8	230
モニタリング	15	10	14	20	16	31	29	17	20	10	14	22	218
家庭訪問	47	39	74	46	42	57	43	37	56	26	34	78	579

*モニタリングには、モニタリング時に計画変更となり本計画作成につながった数を含む。

表7-3 基本相談

（2023年度、単位：件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
家庭訪問	5	8	19	9	6	2	7	7	9	2	5	13	92
来所	6	2	6	2	6	3	6	3	8	3	2	18	65
電話	61	32	56	53	45	26	33	38	42	42	45	55	528

表7-4 基本相談の内容

（単位：件）

サービス利用等	子どもの発達・障害	子育て	幼・保・学校など	家族	子どもの余暇等	その他
575	37	100	259	415	4	160

*重複計上

*その他とは上記カテゴリーに当てはまらなないと判断した内容のものになる。

表7-5 会議等

	開催日	構成メンバー	参加職員
障害児相談支援運営連絡会	2023. 6.20 2023. 9.12 2023.12.22	名古屋市 中央療育センター 各地域療育センター 各児童発達支援センター あけぼの学園	相談支援専門員
南区自立支援連絡協議会 相談支援連絡会	月一回開催	基幹相談支援センター 区内相談支援事業所 南区役所福祉課 南保健センター	相談支援専門員
緑区自立支援連絡協議会 相談部会定例会	月一回開催	基幹相談支援センター 区内相談支援事業所 緑区役所福祉課 緑保健センター	相談支援専門員
ケース会議・サービス調整会議	45回 (必要に応じて開催・参加)	関係機関	相談支援専門員

第8 医療的ケア児等支援スーパーバイザー事業

2021年8月より、名古屋市から委託を受け“名古屋市医療的ケア児支援スーパーバイザーモデル事業”がはじまりました。

〈事業内容〉

- (1) コーディネーターに対するスーパーバイズ
- (2) コーディネーターと医療、保健、福祉、教育等の関係機関等の連携促進
- (3) 支援難度の高い医療的ケア児への個別的な相談支援
- (4) コーディネーター養成にかかる協力
- (5) 地域における社会資源の開発
- (6) 周知広報
- (7) 関係会議への出席 ほか

2023年度の事業実績は以下の通りです。

1. コーディネーターに対するスーパーバイズ

(2023年度、単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
電話相談	22	25	28	29	20	6	34	31	42	20	25	41	323
訪問相談	4	2	6	2		5	2	1	4	1	8	3	38
来所相談	8	3	4	4	3	3	10	5	6	7	3	5	61

* 電話相談には、医療的ケア児等コーディネーターの調整も含む。

2. 支援難度の高い医療的ケア児への個別的な相談支援

(2023年度、単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
電話相談	8	10	9	18	27	39	26	14	11	12	27	28	229
訪問相談	3	4	4	3		6	3	4	6	4	8	10	55
来所相談	4	3	1	2	4	1	2	2	3	2	6	5	35

* 電話、訪問、来所以外にメールでの相談もある。

3. 周知・広報

(2023年度、単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
医療機関	3	1			1	3	1	2					11
保育園、学校		2	1										3
訪問看護・リハ事業所	3	3	1	2		1	2		4		2	3	21
療育センター等	2	2	2	1				1					8
障害福祉サービス事業所	4	1	1	2	1	1		2					12
相談支援事業所			1	2	1				2				6
保健センター	1		4	2	1	1			1	3	4		17
その他関係機関	4		3		2				1		1		11

注) その他の関係機関は「子ども応援委員会」「教育委員会」「児童相談所」「親の会」他

4. 関係機関調整・会議等

〈関係機関調整〉

退院時カンファレンス 担当コーディネーターと同行

サービス担当者会議 情報共有会

〈会議・研修等〉

会議・研修名	主催
医療的ケア児等コーディネーター養成研修、フォローアップ研修	愛知県・名古屋市
各ブロック医ケア児支援コーディネーター交流会	だいでう医療的ケア児支援センター
だいでう・にじいろ医療的ケア児サポート研修会	だいでう医療的ケア児支援センター
療育センター、児童発達支援センター医療的ケア児等コーディネーター交流会	名古屋市
市内各区自立支援連絡協議会部会	各区基幹相談支援センター

資料 センター利用者数の10年間の推移（2014年度～2023年度）

新規相談件数（区別）

（単位：件）

年 度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
南 区	118	103	105	127	126	144	111	132	114	120
緑 区	342	273	290	327	291	284	309	330	300	315
熱田区	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
港 区	5	9	5	7	7	4	2	8	11	4
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	475	385	400	461	424	432	422	470	425	439

新規相談件数（年齢別）

（単位：件）

年 度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
0 歳	13	16	23	13	16	12	12	7	8	4
1 歳	50	33	28	47	47	42	47	65	56	60
2 歳	148	113	87	154	127	143	151	146	120	141
3 歳	158	113	135	132	115	121	97	134	103	105
4 歳	43	49	58	56	59	53	55	62	72	67
5 歳	51	53	51	42	49	46	48	43	52	52
6 歳	12	8	18	13	11	15	12	13	14	10
小学校低学年	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
小学校高学年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	475	385	400	461	424	432	422	470	425	439
1.2歳児初診				221	213	220	235	258	223	231
合診				38	43	37	36	36	28	29
一般初診				202	168	175	151	176	174	179

継続相談延べ件数

（単位：件）

年 度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
件 数	1175	1123	1137	1063	1000	1010	1033	1025	986	1007
実人数	860	824	816	806	774	773	802	840	830	841

療育グループ延べ参加人数

(単位：人)

年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
就園前グループ	3760	3860	3172	2960	3411	2797	1824	2122	2627	2924
並行グループ	679	564	581	561	397	412	381	451	420	421
計	4439	4424	3753	3521	3808	3209	2205	2573	3047	3345

小児科診察件数

(単位：件)

年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
初診(実)	475	385	400	461	424	432	422	470	425	439
再診(のべ)	262	321	362	453	563	563	749	778	804	792
計	737	706	762	914	987	995	1171	1248	1229	1231

整形外科科診察件数

(単位：件)

年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
初診	47	47	55	51	44	45	44	40	43	40
再診	922	900	587	942	538	564	525	493	485	477
計	969	947	642	993	582	609	569	533	528	517

精神科診察件数

(単位：件)

年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
初診	12	4	4	4	4	2	2	0	4	5
再診	71	75	55	69	77	57	62	62	57	54
計	83	79	59	73	81	59	64	62	61	59

耳鼻科診察件数

(単位：件)

年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
初診	217	184	149	90	190	145	110	121	180	181
再診	488	442	274	178	223	262	125	128	85	79
計	705	626	423	268	413	407	235	249	265	260

理学療法訓練延べ件数

(単位：件)

年 度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
件 数	2,531	2,436	2,411	2,239	1,953	1,935	1,983	1,803	1,727	1,504

作業療法訓練延べ件数

(単位：件)

年 度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
件 数	1,802	1,605	1,849	1,689	1,691	1,425	1,400	1,374	1,354	1,399

言語聴覚療法訓練延べ件数

(単位：件)

年 度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
件 数	1,301	1,813	1,532	1,866	2,034	1,578	1,538	1,506	1,258	1,322

巡回療育実施件数（職員派遣数）

(単位：人)

年 度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
件 数	124	140	115	125	109	111	50	102	115	186

訪問件数

(単位：件)

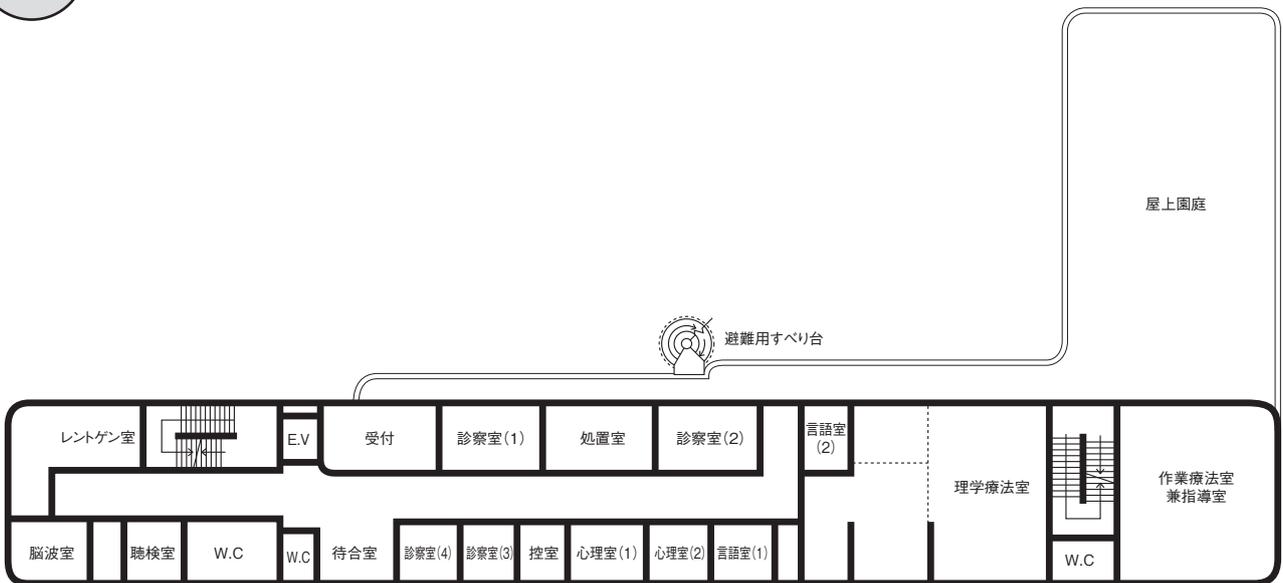
年 度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
回 数	26	14	10	21	22	9	24	20	9	15

平面図

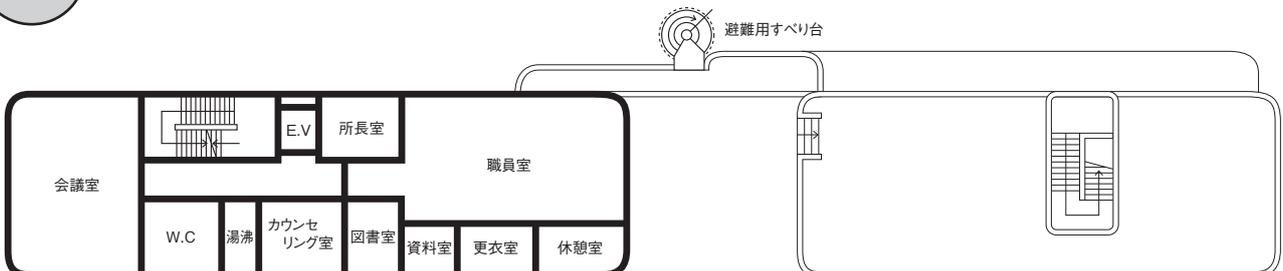
1階

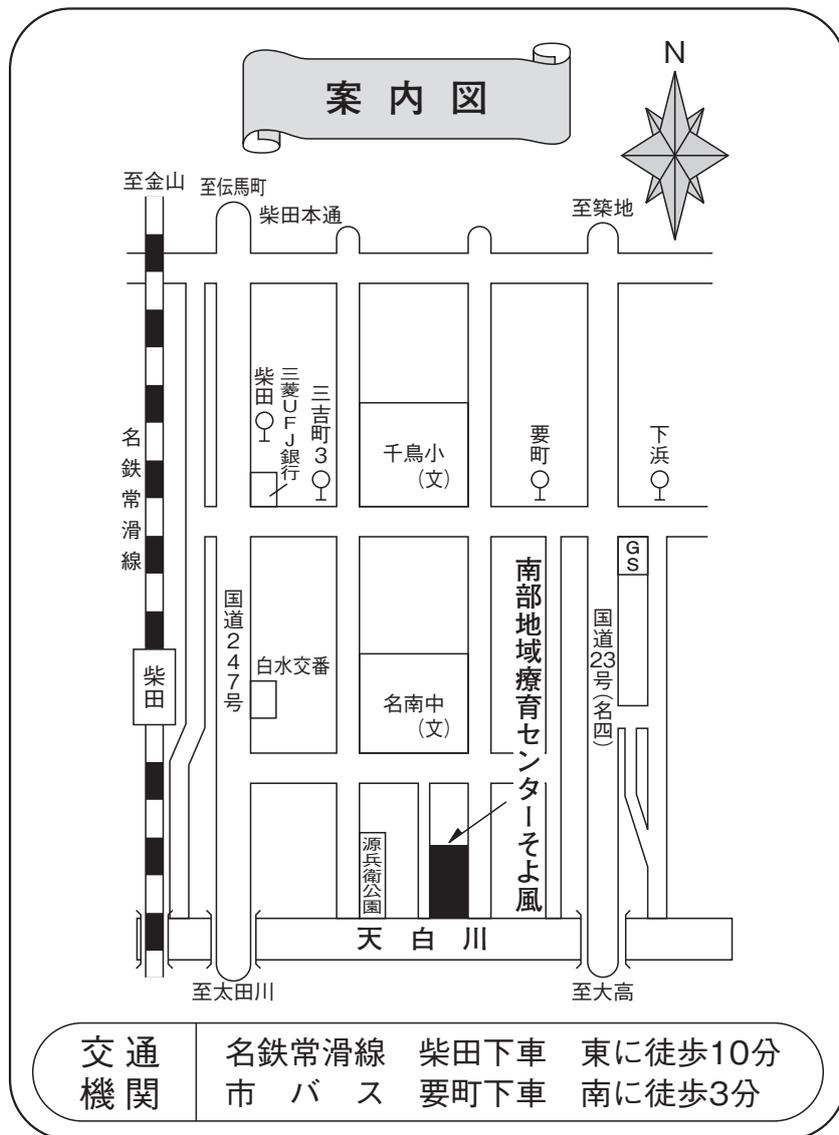


2階



3階





2024年7月発行

発行者 社会福祉法人名古屋キリスト教社会館
南部地域療育センターそよ風
 〒457-0805 名古屋市南区三吉町6-17
 TEL 052(612)3357・FAX 052(612)3411

南部地域療育センターそよ風は、
すべての子どもの成長発達を願い
早期療育、地域療育をすすめます。